

HP Asset Manager

ソフトウェアバージョン : 5.20

サービス資産および構成管理

ドキュメントリリース日 : 01 October 2009
ソフトウェアリリース日 : October 2009



法的制限事項

著作権

(c) Copyright 1994-2009 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

限定保証条項

機密コンピュータソフトウェア

所有、使用、または複製するには、HPからの有効なライセンスが必要です。

FAR 12.211および12.212準拠。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアドキュメント、技術データは、ベンダの標準商用ライセンスに基づき、米国政府にライセンス供与されています。

保証

HP製品およびサービスに対する保証は、当該製品またはサービスに付帯する明示的保証条項でのみ規定されます。

本規定のいかなる部分も、他の保証を構成すると解釈されるものではありません。

HPは本書の技術上または編集上の誤謬、欠落についての責任を負わないものとします。

本書に含まれる内容は、予告なく変更される場合があります。

サードパーティ、オープンソースのいずれかまたは両方のライセンス契約に関する情報について、またはオープンソースコードを閲覧するには、以下のいずれかの方法を使用します。

- インストールCD-ROMのThirdPartyディレクトリ内
- Asset Managerのインストール後、サードパーティ、オープンソースのいずれかまたは両方のツールのバイナリファイルが収められているディレクトリ内
- 『**Open Source and Third-Party Software License Agreements**（オープンソースおよびサードパーティのソフトウェアライセンス契約）』ガイドに記されているコンポーネントのURLから

商標

- Adobe(R)、Adobe logo(R)、Acrobat(R)およびAcrobat Logo(R)は、Adobe Systems Incorporatedの登録商標です。
- Corel(R)およびCorel logo(R)は、Corel Corporation および Corel Corporation Limitedの商標、または登録商標です。
- Java™は、Sun Microsystems, Inc. の米国における商標です。
- Microsoft(R)、Windows(R)、Windows NT(R)、Windows(R) XP、Windows Mobile(R)およびWindows Vista(R)は、Microsoft Corporationの米国における登録商標です。
- Oracle(R)は、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。
- UNIX(R)は、The Open Groupの登録商標です。

目次

概要	7
このガイドの概要	7
このガイドの対象ユーザ	7
このガイドの内容	7
関連ドキュメント	8
1. SACM統合の概要	9
IT資産ライフサイクル管理について	9
SACM統合によるメリット	9
ITIL準拠プロセス	10
参照ソースとデータ所有権	11
IT資産管理と構成管理とのフェデレーション	12
予定外の変更の管理	14
2. コンポーネントのインストールと設定	15
サポートされるバージョン	15
必要条件	16
HP Connect-Itシナリオのインストール	18
Asset ManagerとHP Discovery and Dependency Mapping Inventoryとの統合	19
Asset ManagerとHP Universal CMDBとの統合	23
HP Universal CMDBとHP Service Managerとの統合	34

HP Universal CMDBとAsset Managerとの統合	39
HP Service ManagerとAsset Managerとの統合	42
3. テクニカルリファレンス	47
概要	47
HP Discovery and Dependency Mapping Inventory -> Asset Manager	48
Asset Manager -> HP Universal CMDB	53
HP Universal CMDB -> Asset Manager	61
HP Service Manager <-> Asset Manager	64
HP Service Manager -> HP Universal CMDB	73
4. 用語集	75
実際のステータス	75
フェデレーション	75
管理ステータス	76
PPT	76
複製	76
SACM	76
TQL (Topology Query Language)	77
UNSPSC	77
索引	79

表の一覧表

2.1. <Asset Managerインストールフォルダ>\integrations\sacmフォルダの内容	17
2.2. Asset Manager - HP Universal CMDB統合の概要	23
2.3. HP Universal CMDB - HP Service Manager統合の概要	34
2.4. HP Universal CMDB - Asset Manager統合の概要	39
2.5. Asset Manager - HP Service Manager統合の概要	42
3.1. DeviceCategory_ID -> コンピュータのタイプ -> CI タイプマッピング	49

概要

このガイドの概要

このガイドは、HP Discovery and Dependency Mapping Inventory Asset Manager、HP Universal CMDB、およびHP Service Manager間の統合の目的について、概説します。統合のコンポーネントのインストールと構成の方法を説明し、統合されたアプリケーションの機能がどのように強化されるかについても触れます。

このガイドの対象ユーザ

統合は、調達から運用廃止以降に至るまであらゆる資産をよりよく管理しつつ、運用とIT財務管理の両データを提供することを必要とするIT組織を対象としています。

このガイドの内容

「SACM統合の概要」の章

この章では、SACM統合の概要を説明します。

「コンポーネントのインストールと設定」の章

この章では、統合の展開に必要なインストールと構成について説明します。

「テクニカルリファレンス」の章

この章では、各データベースでどのデータオブジェクトがどのシナリオやアダプタから取得されマップされるかについて、およびデータ転送が正しく行われるのに使用される照合更新キーと必要になる特別な要件について説明します。

関連ドキュメント

Asset Managerと共に提供されている、ガイドを網羅したセットおよびその他のサポートドキュメントの詳細については、Asset Manager最新バージョンの『リリースノート』を参照してください。

以下のガイドは、その他のHP Software関連製品向け製品ドキュメントの一部であり、特に統合の実装担当者に関係しています。

- **HP Universal CMDB to HP Service Manager Integration Guide (HP Universal CMDBからHP Service Managerへの統合ガイド)**
- **uCMDB 7.0 integration with ED 2.20 (uCMDB 7.0のED 2.20との統合)**

1 SACM統合の概要

IT資産ライフサイクル管理について

SACM統合の主要な最終目標は、アクティブに管理されるIT資産の取得と登録の時点から除却や抹消の時点に至るまで、IT資産の参照ソースとしてAsset Managerを確立することにあります。

IT資産の管理の第一歩は、取得方法（購入、リース、またはその他の方法）、および詳細の記録方法（手動、または自動スキャンなど）に関わらず、新しく取得したあらゆるハードウェアやソフトウェアの詳細をAsset Managerで記録することです。

HP Universal CMDBフェデレーションを使用することで、HP Service Managerなどのその他のHP SoftwareソリューションでAsset Managerデータを表示して活用できます。このデータは、運用構成アイテム（CI）として表わされます。

HP Universal CMDBから運用CIが抹消された場合でも、Asset ManagerはCIユニットが物理的に除却されるまで、CIユニットを引き続き管理します。

SACM統合によるメリット

統合による主要なメリットを以下に挙げます。

- **資産のトラッキング**：物理CIおよび論理CIの完全なライフサイクル管理を提供します。

- **IT資産の実際のステータスへの実時間アクセス**：望ましいステータスとの比較を可能にします。
- **ITガバナンスおよびコンプライアンス**：事業データ（契約、保証、コストセンタ、価格付け）で物理データおよび検出データを拡充し、変更管理やその他のプロセスを支援します。
- **中央集中化**：ハードウェア、ソフトウェアおよびサービスからコスト情報を収集し、TCOの中央集中化ロールアップを図ります。
- **整理統合**：冗長性の排除、標準の強化、および仮想化の促進を図ります。
- **ビジネスサービス**：サービスを契約/保証に関連付け、サービスベースの経費付替えを可能にします。

Asset Managerを使用することで、組織は以下の作業を行えます。

- 調達を通じて、組織内での資産の初期段階から資産を管理します。
- サービスライフサイクルを通じて、すべての資産データの信頼できる参照ソースを得ます。
- サービスダウンタイムのトラッキングとログ記録を行います。
- 以下に挙げるサービスのTCO（総所有コスト）のトラッキングとログ記録を行います。
 - 調達コスト。
 - 運用コスト。
 - 生産性の損失コスト。
- 運用廃止後にも、財務とレビューの両方の目的のためにサービスの記録を維持します。

ITIL準拠プロセス

業界標準に準拠するため、SACM統合は以下のITILプロセスと整合しています。

- サービスポートフォリオ管理（Service Strategy）
- IT財務管理（Service Strategy）
- サービスレベル管理（Service Design）
- インシデント管理（Service Operations）
- 問題管理（Service Operations）
- 依頼管理（Service Operations）
- 構成管理（Service Transition）
- 変更管理（Service Transition）

参照ソースとデータ所有権

ハードウェアとソフトウェアの詳細、関連構成と無関連の構成を収集するあらゆるIT検出ツール（HP Discovery and Dependency Mapping Inventory、Microsoft SCCM、自社製ツールなど）を、Asset ManagerのITインベントリソースと見なす必要があります。

提示された検出の詳細を受信して、調査し、IT資産の「確認済み認定済みステータス」として確定することが、Asset Managerの任務です。認定されると、更新されたIT資産は、フェデレーションと複製の組み合わせを用いることで、関連CIからHP Universal CMDBにアクセス可能になります。

HP Universal CMDBフェデレーションを通じることで、CI関係を使用して、CMSまたはITSMプロセスはクエリを実行したり、Asset Managerリポジトリ内の属性を更新できます（適切な場合）。資産の詳細をHP Service Managerなどの別のリポジトリに移動したり、複製する必要はありません。ただし、性能上の理由により、一般的にアクセスされる属性の複製を選択する場合があります。

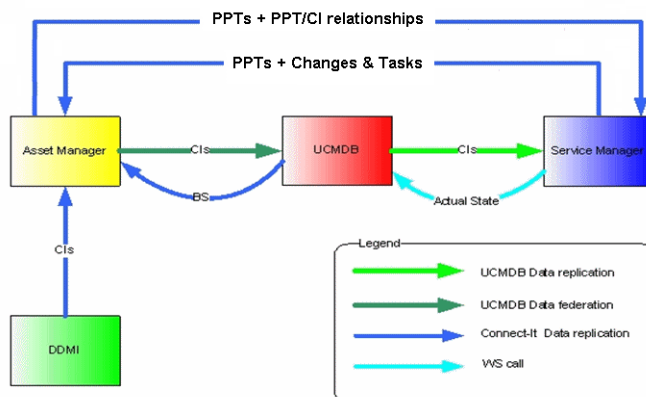
資産レコードは通常、関連CIがHP Universal CMDBに作成される前にAsset Managerに作成されます。例えば、データセンタサーバをリースまたは購入したものの、構成とインストールが未済の時点などです。

CIが運用に移行すると、資産：CI関係が確立します。構成属性のほとんどがAsset Managerリポジトリに既に存在します。

適切なユーザ権限管理とビジネスプロセスルールを使用することで、フェデレーションを通じて適切にHP Universal CMDB内の資産レコードを更新できます。

関連CIがHP Universal CMDB内の運用サービスから削除されても（再使用を見越して関連IT資産が在庫に戻された場合など）、資産レコードは存在し続けます。

以下の図は、統合実施後の主要なデータフローの詳細を示しています。



IT資産管理と構成管理とのフェデレーション

資産トラッキング用にAsset Managerに棚卸データが格納されます。

Asset Managerは、HP Universal CMDBの参照棚卸ソースとして機能します。

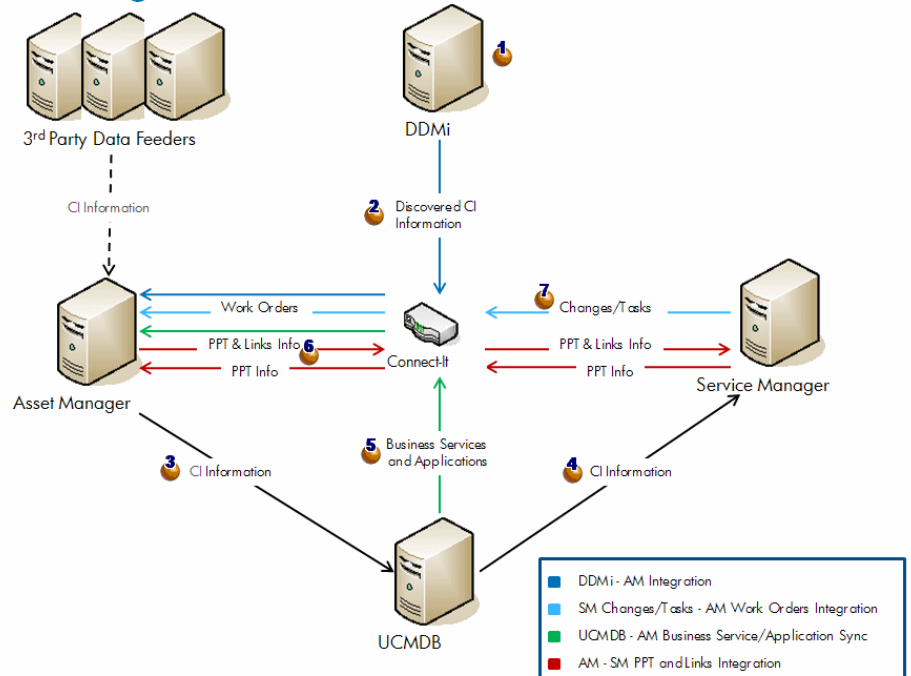
- HP Universal CMDBは、HPのサービスポートフォリオ管理サイトを通じた、データのフェデレーション用の構成管理システム（CMS）アクセスハブです。
- HP Universal CMDBは、正確な棚卸と資産トラッキングの詳細について、Asset Managerに依存します。

以下の図は、データの複製方法、およびこれらの製品のデータベース間のフェデレーション方法の概要を示します。


- 検出ツール（HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryなど）からのデータがAsset Manager内で複製されます。
- 複数のソースから複製され照合更新されたAsset Managerデータが、HP Universal CMDBに渡されます。ここで、データが対応する構成アイテム（CI）データと関連付けられます。
- フェデレーションされたCI情報が、HP Service Managerなどのその他のビジネスプロセスおよびBTOソリューションで利用可能になります。

このアプリケーションネットワークにおける主要なデータフローを次のスキーマに強調表示します。

Network Diagram



- 1 **1** CI情報がHP Discovery and Dependency Mapping Inventory（およびその他のサードパーティツール）で検出されます。
- 2 **2** CI情報がHP Discovery and Dependency Mapping InventoryからAsset Managerに複製されます。
- 3 **3** CI情報がAsset ManagerからUCMDBに複製、またはフェデレーションされます。
- 4 **4** CI情報がHP Universal CMDBからHP Service Managerに複製、またはフェデレーションされます。
- 5 **5** ビジネスサービス情報がHP Universal CMDBからAsset Managerに複製されます。
- 6 **6** PPT（People、Place、Things）情報がAsset ManagerとHP Service Managerとの間で複製されます（AM->SMまたはSM->AMのいずれの方向にも実装できます）。

- 7  HP Service Managerの変更とタスクがAsset Managerに複製され、Asset Manager作業指示が生成されます。

予定外の変更の管理

なんらかの信頼済みソース（HP Discovery and Dependency Mapping Inventory、ERP、LDAP、ベンダーなど）により、予定外の変更が検出された場合、Asset Manager複製は更新をトラップしてHP Universal CMDBに転送します。HP Universal CMDBはそれをHP Service Managerに転送します。

これにより、HP Service Manager内でインシデントプロセスが開始されます。HP Service Managerインシデント管理は、提案された変更を承認するかどうかを判断します。

変更が承認されると、管理ステータスがHP Service Managerで更新されます。変更が承認されないと、CIの変更が依頼されます。

2 コンポーネントのインストールと設定

サポートされるバージョン

以下の製品バージョンがSACM統合でサポートされます。

- Asset Managerバージョン5.2x
- HP Universal CMDBバージョン8.02

警告:

HP Discovery and Dependency Mapping Inventory for HP Universal CMDB 8.02はコンテンツパック3を必要とします。コンテンツパック3がない場合、HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryが（ホスト接続WMI検出パターン実行時に）、値が見つからなかったCIの資産タグを上書きしてしまいます。

- HP Service Manager 7.1x
- HP Discovery and Dependency Mapping Inventory 7.6x
- HP Connect-It 4.1x

注意:

Service Asset and Configuration Management統合は、現時点で以下の制限を受けます。

Asset Manager DBMSがDB2 UDBを使用する場合は、HP Universal CMDBとの統合はサポートされません。

必要条件

SACM製品のインストール

統合をインストールして設定する前に、SACM製品をインストールして、統合コンポーネントがネットワーク経由でアクセスできるようにする必要があります。

- Asset Manager
- HP Universal CMDB
- HP Service Manager
- HP Discovery and Dependency Mapping Inventory
- HP Connect-It
- HP Service Manager <-> HP Universal CMDB統合（HP Universal CMDBからHP Service ManagerにマップされるCIタイプを再使用します）

各SACM製品に付属のインストールガイドを参照してください。



注意:

HP Service Manager <-> HP Universal CMDB統合のガイドはHP Service Managerに付属しています。

タイトルは、『**HP Universal CMDB to HP Service Manager Integration Guide (HP Universal CMDBからHP Service Managerへの統合ガイド)**』です。

HP Service Managerヘルプサーバからガイドにアクセスできます。

リリース日2008年12月のこのガイドの「**Add the UCMDB connection information (UCMDB接続情報の追加)**」には誤記があります。

HP Universal CMDB WebサービスAPIへのURL形式は、正しくは以下の形式になります。

`http://<UCMDBサーバー名>:<ポート>/axis2/services/ucmdbSMService`

(**http://**が必要です)

統合配布パッケージの取得

SACM統合をインストールして設定するのに必要なファイルはすべて、Asset Managerのインストールの一部として提供されています。

 ヒント:

SACMインストールファイルは、Asset Managerと一緒に体系的にインストールされます。デフォルトのAsset Managerセットアップをカスタマイズする必要はありません。カスタムセットアップを行う場合、すべての機能を選択解除してもSACMファイルがインストールされます。

SACMインストールファイルは、<Asset Managerインストールフォルダ>\integrations\sacmフォルダに配置されます（これはデフォルトでC:\Program Files\HP\Asset Manager 5.20 xx\integrations\sacm）。

以下の表は<Asset Managerインストールフォルダ>\integrations\sacmフォルダの内容の説明です。

表 2.1. <Asset Managerインストールフォルダ>\integrations\sacmフォルダの内容

統合の部分	フォルダまたはファイル	目的
<ul style="list-style-type: none">■ HP Discovery and Dependency Mapping Inventory -> Asset Manager■ HP Universal CMDB -> Asset Manager■ Asset Manager <-> HP Service Manager	\integrations\sacm\Connect-It\	HP Connect-Itシナリオのインストール ▶ HP Connect-Itシナリオのインストール [献 18]
Asset Manager -> HP Universal CMDB	\integrations\sacm\AMDBUpdate\	新規Asset Manager SQLビューとフィールドの作成 ▶ Asset Manager SQLビューの作成 [献 23]
Asset Manager -> HP Universal CMDB	\integrations\sacm\AMDBAdapter.zip	HP Universal CMDBでのAsset Managerアダプタの展開 ▶ Asset Managerアダプタの展開 [献 29]
Asset Manager -> HP Universal CMDB	\integrations\sacm\AMDAdapter\	Asset ManagerでのAsset Managerアダプタコンポーネントの展開 <ul style="list-style-type: none">■ ▶ Asset Managerアダプタの追加 [献 29]■ ▶ dtSACMCreateフィールドの追加 [献 25]
Asset Manager -> HP Universal CMDB	\integrations\sacm\AM Business Services integration.zip	HP Universal CMDBでのビジネスサービスTQLの展開 ▶ ビジネスサービスTQLの展開 [献 40]

HP Connect-Itシナリオのインストール

HP Connect-Itは、以下の統合向けのデータ複製を仲介します。

- HP Discovery and Dependency Mapping Inventory -> Asset Manager
- HP Universal CMDB -> Asset Manager
- Asset Manager <-> HP Service Manager

これらのそれぞれで、Asset Manager配布の一部として提供されているシナリオが使用されます。

SACMシナリオは、Asset ManagerインストールフォルダからHP Connect-Itインストールフォルダにコピーする必要があります。

1 以下のHP Connect-Itフォルダをバックアップします。

- <HP Connect-Itインストールフォルダ>\scenario\ed\ddmi75
- <HP Connect-Itインストールフォルダ>\config\ed\ddmi75

これらのフォルダに含まれるファイルに対して行ったカスタマイズは、SACMインストールファイルをコピーするときに失われます。

2 <Asset Managerインストールフォルダ>\integrations\sacm\Connect-Itフォルダの以下のサブディレクトリをコピーします。

- config
- datakit
- scenario

3 これらのサブディレクトリを<HP Connect-Itインストールフォルダ>フォルダにコピーします。

これにより以下が実行されます。

- <HP Connect-Itインストールフォルダ>\scenario\ed\ddmi75\ddmi75am51内のHP Connect-Itシナリオと関連ファイルが置き換えられます。



重要項目:

これらのHP Connect-Itシナリオが、HP Connect-It付属の同じ名前の標準シナリオを置き換えます。

これらのシナリオをカスタマイズした場合、Asset Manager 5.20付属のシナリオのカスタマイズをやり直す必要があります。

- <HP Connect-Itインストールフォルダ>\scenario\ac\ac51\sacmddb8am51内にHP Connect-Itシナリオと関連ファイルが作成されます。
- <HP Connect-Itインストールフォルダ>\scenario\ac\ac51\sacm\sm71am51内にHP Connect-Itシナリオと関連ファイルが作成されます。

Asset ManagerとHP Discovery and Dependency Mapping Inventoryとの統合

概要

統合の方向	HP Discovery and Dependency Mapping InventoryからAsset Manager
統合テクノロジー	HP Connect-It
複製されるデータ	HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryにより棚卸されたCIはAsset Managerに複製されます HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryコンピュータ（スキャン済みと未スキャン）、およびネットワークプリンタを含むネットワークデバイスが、Asset Managerの amPortfolio テーブルに複製されます（ amComputer と amAsset オーバーフローテーブルへのリンクも作成されます）。
HP Connect-Itシナリオ	<ul style="list-style-type: none">■ ddmiac.scn■ ddmiac-hpovcmse.scn■ ddmiac-reconc.scn■ ddmiac-swnorm.scn■ ddmiac-mobiledevices.scn

HP Connect-Itシナリオの詳細

- ddmiac.scn

このシナリオは、モバイルデバイスを除くすべてのタイプのCIを複製します。HP Client Automationからは情報を取得しません（ddmiac-hpovcmse.scnとは異なる）。

照合更新提案を使用することなく、Asset Managerレコードを直接変更します（ddmiac-reconc.scnとは異なる）。

ソフトウェアインストールを確定版モデルに直接リンクします（ddmiac-swnorm.scnとは異なる）。

▶ 詳細については、HP Connect-Itガイドである『コネクタ』の「付属シナリオ」の「**HP Enterprise Discovery シナリオ/ ed\ed21\ed21ac44\edac.scn**」を参照してください。

- ddmiac-hpovcmse.scn

このシナリオは、ddmiac.scnシナリオと同じ機能を果たしますが、さらにHP Client AutomationからAsset Managerに一部の情報を複製します。

▶ 詳細については、HP Connect-Itガイドである『コネクタ』の「付属シナリオ」の「**HP Enterprise Discovery シナリオ/ ed\ed20\ed2ac44\edac-hpovcmse.scn**」を参照してください。

- **ddmiac-reconc.scn**
このシナリオは、**ddmiac.scn**と同じ機能を果たしますが、さらに**amComputer:IMemorySizeMb**フィールドに変更の照合更新提案を作成します。
▶ 詳細については、HP Connect-Itガイドである『コネクタ』の「付属シナリオ」の「**HP Enterprise Discovery シナリオ/ ed\ed20\ed2ac50\edac-reconc.scn**」を参照してください。
- **ddmiac-swnorm.scn**
このシナリオは、**ddmiac.scn**と同じ機能を果たしますが、ソフトウェアインストールにモデルを割り当てるのに**amlInventModel**レコードを使用します。
- **ddmiac-mobiledevices.scn**
このシナリオは、HP Discovery and Dependency Mapping InventoryからAsset Managerにモバイルデバイスを複製します。
HP Client Automationからは情報を取得しません（**ddmiac-hpovcmse.scn**とは異なる）。
照合更新提案を使用することなく、Asset Managerレコードを直接変更します（**ddmiac-reconc.scn**とは異なる）。

 **注意:**

すべてのシナリオを使用する必要はありません。

モバイルデバイス以外のすべてのタイプのCIを複製するには、**ddmiac.scn**、**ddmiac-hpovcmse.scn**、**ddmiac-reconc.scn**、または**ddmiac-swnorm.scn**を使用します。

モバイルデバイスを複製するには、**ddmiac-mobiledevices.scn**を使用します。

Asset Managerデータベースの準備

HP Connect-Itシナリオを正しく実行できるようにするには、Asset Managerデータベースにいくつかのデータが必要です。

以下の専門分野データを既にインポートしている場合を除いて、以下の指示に従ってください。

- ポートフォリオ - 専門分野データ
 - カタログ - UNSPSC製品分類
 - 仮想化 - 専門分野データ
- 1 Asset Manager Application Designerを実行します。
 - 2 [ファイル/開く]メニュー項目を選択します。
 - 3 [データベース記述ファイルを開く (新規データベースの作成)]オプションを選択します。

- 4 Asset Managerインストールフォルダのconfigサブフォルダにある、gbbase.xml ファイルを選択します。
- 5 データベース作成ウィザードを開始します（[アクション/データベースの作成] メニュー）。
- 6 次のようにウィザードのページを入力します（ウィザードページを移動するには、[次へ] または [戻る] ボタンを使用します）。
[SQLスクリプトの生成/データベースの作成] ページ：

フィールド	値
データベース	専門分野データのインポート先にするデータベースへの接続を選択します。
作成 高度な作成オプションを使用	専門分野データをインポート このオプションは選択しないでください。

[作成パラメータ] ページ：

フィールド	値
パスワード	管理者パスワードを入力します。
	<p>注意:</p> <p>Asset Managerデータベース管理者は、[部署名/姓] (Name) フィールドがAdminに設定された [部署と従業員] (amEmplDept) テーブル内のレコードです。</p> <p>データベース接続ログインが [ユーザ名] (UserLogin) フィールドに保存されます。管理者名はAdminです。</p> <p>パスワードは [パスワード] (LoginPassword) フィールドに格納されます。</p>

[インポートするデータ] ページ：

フィールド	値
使用可能データ	次のオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ ポートフォリオ - 専門分野データ ■ カタログ - UNSPSC製品分類 ■ 仮想化 - 専門分野データ
エラー発生時にインポートを中止	エラーが発生した場合にインポートを中止するには、このオプションを選択します。

フィールド	値
ログファイル	エラーと警告を含む、すべてのインポート操作が記録されるファイルの完全名。

7 ウィザードを使用して定義したオプションを実行します（[完了] ボタン）。

 **注意:**

- ポートフォリオ - 専門分野データ：これは、HP Connect-Itシナリオが必要とする属性とモデルを作成するのに必要になります
- カタログ - UNSPSC製品分類：UNSPSC分類を使用して、Asset Managerで作成されたCIモデルに正しい親モデルを割り当てます
- 仮想化 - 専門分野データ：これは、仮想マシンモデルをインポートするのに必要になります

libmysql.dllのコピー

HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryは、MySQL DBMSにデータを格納します。

HP Connect-Itは、MySQL libmysql.dllライブラリを使用しますが、デフォルトのMySQLインストールフォルダ内のライブラリを検出できません。

libmysql.dllを、HP Connect-Itが認識するフォルダまでコピーする必要があります。

- 1 <MySQLインストールフォルダ>\bin\libmysql.dllファイルをコピーします。
- 2 そのファイルを、<HP Connect-Itインストールフォルダ>\binフォルダ、または<OSインストールフォルダ>\system32フォルダに貼り付けます。

HP Connect-Itシナリオの設定

以下のコネクタがシナリオで使用されます。また、使用するシナリオ内で設定する必要があります。

- Asset Manager（すべてのシナリオ）
- HP Discovery and Dependency Mapping Inventory（すべてのシナリオ）
- CMサービスイベント（ddmiac-hpovcmse.scn）

コネクタの構成方法については、HP Connect-Itの『コネクタ』ガイドの「**Hewlett-Packardコネクタ**」を参照してください。

シナリオの実行のスケジュール

HP Connect-It内のスケジューラを定義して、シナリオの実行をスケジュールできます。

▶ HP Connect-It 『ユーザガイド』の「統合シナリオのインプリメンテーション」の章を参照してください。

Asset ManagerとHP Universal CMDBとの統合

概要

表 2.2. Asset Manager - HP Universal CMDB統合の概要

統合の方向	Asset ManagerからHP Universal CMDB
統合テクノロジー	HP Universal CMDB一般データベースアダプタ
複製されるデータ	Asset Managerに格納されたCIは、HP Universal CMDBで複製、またはフェデレーションされます（これはデータのタイプに応じて異なります）
HP Universal CMDBアダプタ	Asset Managerアダプタ

Asset Manager SQLビューの作成

Asset Manager SQLビューを作成する理由

Asset Managerアダプタは、SQLビューを使用してAsset Managerデータベースにアクセスします。

ビューの作成

- 1 <Asset Managerインストールフォルダ
>\integrations\sacm\AMDBUpdate\CreateViews.batを実行します。

警告:

このバッチファイルは、Windows環境下でのみ使用できます。UNIX環境下では使用できません。

このバッチファイルを実行すると、Asset Managerデータベース構造が変化します。

SQLビューを作成するのに、DBMSレベルの管理者権限が必要です。

使用法:

- Asset ManagerデータベースがMicrosoft SQL Serverを使用している場合:

```
CreateViews.bat [MSSQL2000 | MSSQL2005] <サーバ> <データベース>
<ユーザ名> <パスワード>
```

プロパティ	値
サーバ	Asset Managerデータベースを含むMicrosoft SQL Serverサービス。
データベース	Microsoft SQL ServerレベルでのAsset Managerデータベース名。
ユーザ名	Asset Managerデータベースに関連付けられたMicrosoft SQL Serverユーザ。
パスワード	Asset Managerデータベースに関連付けられたユーザに関連付けられたMicrosoft SQL Serverパスワード。

例：

```
CreateViews.bat MSSQL2000 mylogin\AssetManager AMDB am password
```

- Asset ManagerデータベースがOracleを使用している場合：

```
CreateViews.bat Oracle <Oracle SID> <ユーザ名> <パスワード>
```

プロパティ	値
Oracle SID	OracleレベルでのAsset Managerデータベース識別子。
ユーザ名	Asset Managerデータベースに関連付けられたOracleユーザ。
パスワード	Asset Managerデータベースに関連付けられたユーザに関連付けられたOracleパスワード。

重要項目：

前提条件：

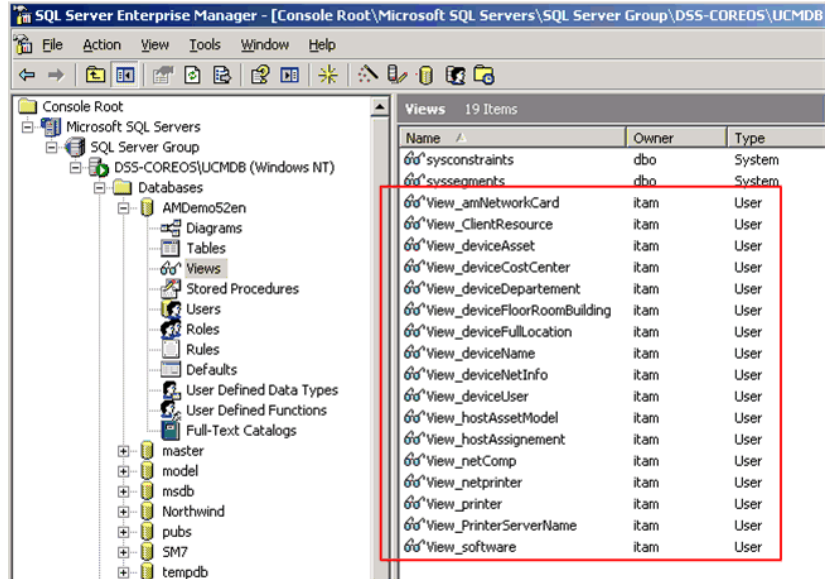
ORACLE_HOME環境変数が設定されている必要があります。

OracleデータベースにSQLビューを作成するため、以下のように**GRANT**権限が<ユーザ名>に割り当てられている必要があります。

```
SQL> GRANT create ANY VIEW to <ユーザ名>;
SQL> GRANT SELECT ANY TABLE to <ユーザ名>;
SQL> GRANT create MATERIALIZED VIEW to <ユーザ名>;
```

- 2 データベースブラウザを使用して、以下の17個のビューが作成されていることを確認します（所有者=<ユーザ名>、名前の先頭が「**View_**」）。

Microsoft SQL Serverでの例



dtSACMCreateフィールドの追加

Asset Managerアダプタは**dtSACMCreate**フィールドを使用して、HP Universal CMDBデータベースに作成するCIの**root_createtime**フィールドに入力します。

Asset Manager ポートフォリオ品目 (amPortfolio) テーブルに**dtSACMCreate**フィールドを追加するには、以下の手順に従います。

- 1 Asset Manager Application Designerを起動します。
- 2 Asset Managerデータベースに接続します ([ファイル/開く] メニュー)。
- 3 [データベース/フィールドの追加] メニューオプションを使用して、ポートフォリオ品目 (amPortfolio) テーブルに以下の属性を持つ**dtSACMCreate**フィールドを作成します。

属性	値
[全般] タブ	
SQL名	dtSACMCreate
ラベル	レコード作成日時
説明	レコードが作成された日時
データ型	日付+時刻

属性	値
[スクリプト] タブ	
デフォルト	RetVal=Now()
読取り専用	はい
必須	いいえ



警告:

表に記載されているフィールドSQL名とデータ型をそのまま使用してください。

- 4 [保存] をクリックして、新しいフィールドを保存します。
- 5 Asset Manager Application Designerを閉じます。
- 6 既存のポートフォリオ品目レコードの**dtSACMCreate**フィールドに入力します。

<Asset Managerインストールフォルダ

>\integrations\sacm\AMDBUpdate\PopulateDtSACMCreate.batを実行します。



警告:

データベース構造に**dtSACMCreate**フィールドが追加された後に作成された、任意の新規レコードについてはフィールドに自動的に入力されるため、これは一度のみ実行する必要があります。

このバッチファイルは、Windows環境下でのみ使用できます。UNIX環境下では使用できません。

このバッチファイルを実行すると、Asset Managerデータベースレコードが変化します。

使用法:

- Asset ManagerデータベースがMicrosoft SQL Serverを使用している場合:

```
PopulateDtSACMCreate.bat [MSQL2000|MSSQL2005] <サーバ> <データベース> <ユーザ名> <パスワード>
```

プロパティ	値
サーバ	Asset Managerデータベースを含むMicrosoft SQL Serverサービス。
データベース	Microsoft SQL ServerレベルでのAsset Managerデータベース名。
ユーザ名	Asset Managerデータベースに関連付けられたMicrosoft SQL Serverユーザ。

プロパティ	値
パスワード	Asset Managerデータベースに関連付けられたユーザーに関連付けられたMicrosoft SQL Serverパスワード。

例：

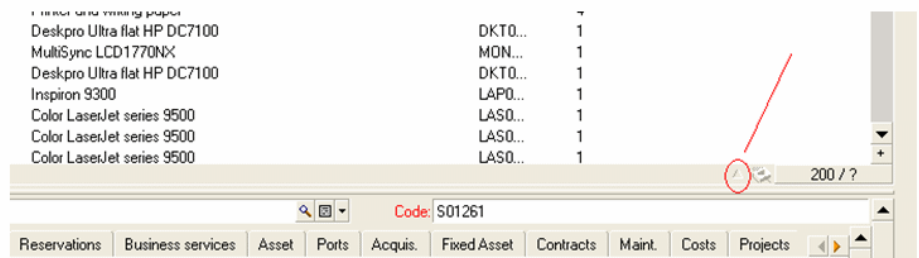
```
PopulateDtSACMCreate.bat MSSQL2000 mylogin\AssetManager AM
DB am password
```

- Asset ManagerデータベースがOracleを使用している場合：

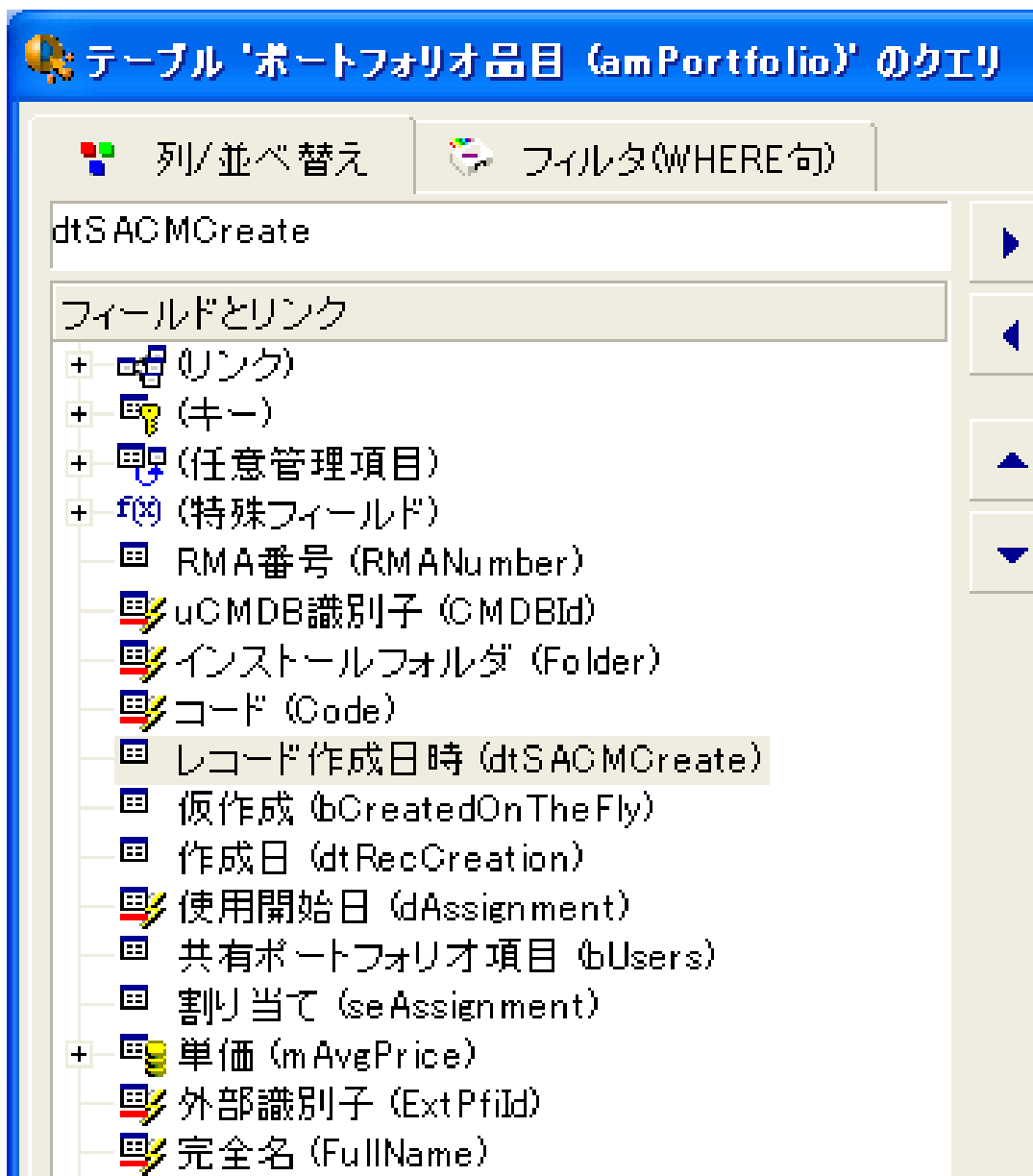
```
PopulateDtSACMCreate.bat Oracle <Oracle SID> <ユーザ名> <パスワード>
```

プロパティ	値
Oracle SID	OracleレベルでのAsset Managerデータベース識別子。
ユーザ名	Asset Managerデータベースに関連付けられたOracleユーザー。
パスワード	Asset Managerデータベースに関連付けられたユーザーに関連付けられたOracleパスワード。

- 7 Asset Managerで、すべてのポートフォリオ品目レコードの**dtSACMCreate**フィールドに入力されていることを確認します。
 - 1 Asset Manager Windowsクライアントを起動します。
 - 2 [ポートフォリオ管理/ポートフォリオ品目] ナビゲーションバーリンクを開きます。
 - 3 [Query on table(テーブルでのクエリ)] ウィンドウを開きます (三角形アイコンをクリックしてアクセスできます)



- 4 [ポートフォリオ品目] 画面に**dtSACMCreate**フィールドを追加します。



dtSACMCreateフィールドは可視であり、その値は PopulateDtSACMCreate.batを実行した日時である必要があります。

Asset Managerアダプタの作成

Asset Managerアダプタを作成する理由

HP Universal CMDBはAsset Managerアダプタを使用して、Asset ManagerからHP Universal CMDBにデータを複製、またはフェデレーションします。

Asset Managerアダプタの追加

- 1 <Asset Managerインストールフォルダ>\integrations\sacm\AMDBAdapter フォルダをコピーします。
- 2 これを<HP Universal CMDBインストールフォルダ>\j2f\fcmdb\CodeBase\フォルダにコピーします。
- 3 HP Universal CMDBバージョン8.02を使用している場合、以下の操作を実行する必要があります。
 - a <HP Universal CMDBインストールフォルダ>\j2f\fcmdb\CodeBase\AMDBAdapter\META-INF\fixed_values.txt ファイルを編集します。
 - b 以下の行を変更します。

```
entity[ip] attribute[ip_domain] value[${DefaultDomain}]
```

変更後：

```
entity[ip] attribute[ip_domain] value[DefaultDomain]
```

Asset Managerアダプタの展開

- 1 <Asset Managerインストールフォルダ>\integrations\sacm\AMDBAdapter.zip ファイルをコピーします。
- 2 これを<HP Universal CMDBインストールフォルダ>\root\lib\customer_packages フォルダにコピーします。
- 3 UCMDBサーバーを起動します。
- 4 インターネットブラウザを開いて、UCMDBサーバに接続します。
- 5 **[Settings (設定)]** タブが表示されます。
- 6 **[Settings (設定)]** メニューから **[Package Manager (パッケージマネージャ)]** を選択します。
- 7 パッケージ名が**AMDBAdapter**であるエントリを選択します。
- 8 アダプタを展開します (エントリを右クリックし、**[Deploy Packages to Server (from local disk)** (サーバにパッケージを展開 (ローカルディスクから))] を選択します)。

展開により、HP Universal CMDB->HP Service Manager統合でインストールされたTQL (例：**hostData**) がオーバーライドされます。

- 9 **[+]** をクリックして、<HP Universal CMDBインストールフォルダ>\root\lib\customer_packagesフォルダにあるAMDBAdapter.zipファイルを選択します。
- 10 **[開く]**、**[OK]** の順にクリックします。
- 11 アダプタが展開されたことを確認します。これには、リストからパッケージを選択して右クリックし、**[View package resources (パッケージリソースの表示)]** を選択します。
リストにAMDBAdapter.xmlとTQL.xmlファイルが表示されるはずですが。
- 12 UCMDBサーバから接続を解除します (ログアウト)。

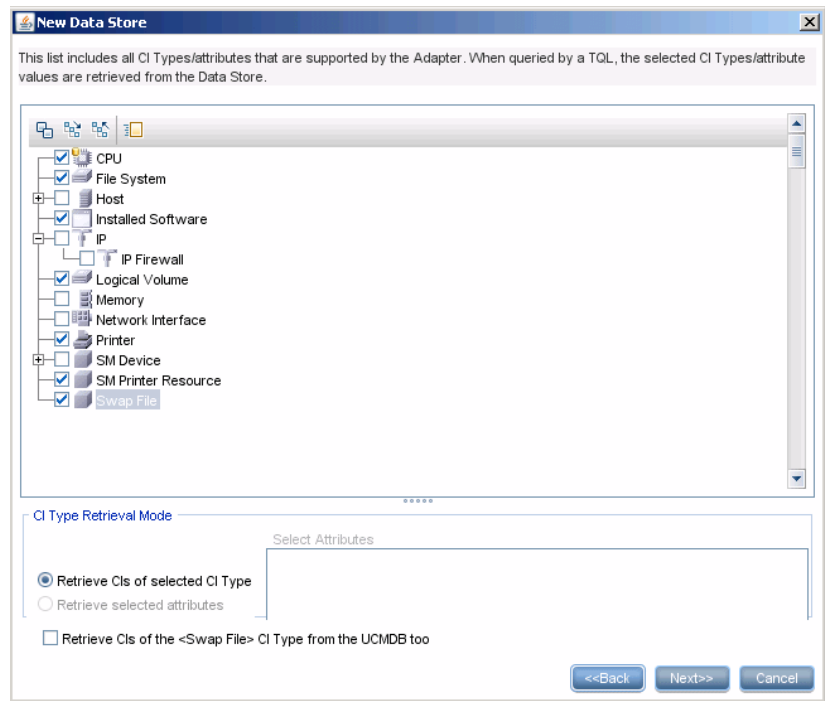
Asset Managerアダプタデータストアの作成

- 1 インターネットブラウザを開いて、UCMDBサーバに接続します。
- 2 **[Settings (設定) / Federated CMDB (フェデレーションCMDB)]** を選択します。
- 3 **[Data stores (データストア)]** タブが表示されます。
- 4 **[View (ビュー)]** フィールドの **[Data Store Definition (データストア定義)]** を選択して、**[*]** をクリックします。
[New Data Store (新規データストア)] ウィザードが表示されます。
以下のプロパティを持つAsset Managerアダプタデータストアを作成します。

プロパティ	値
アダプタ	AMDBAdapter
名前	適切な名前
ホスト	Asset Managerデータベースをホストするコンピュータ。 ホストの完全DNSコンピュータ名 (例： machinename.emea.company)、またはIPアドレスとすることができます。
ポート	Asset Managerデータベースにアクセスするためのポート。
ユーザ	Asset Managerデータベースに関連付けられたDBMSユーザ。
	重要項目: ユーザとそのユーザに関連付けられたパスワードは、データストアを編集する権限があるすべてのユーザが閲覧可能であるため、管理者権限のあるユーザを使用すべきではありません。
パスワード	Asset Managerデータベースに関連付けられたユーザのDBMSパスワード。

プロパティ	値
URL	<ul style="list-style-type: none"> ■ Microsoft SQL Server <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> dbname=<DBMSレベルでのAsset Managerデータベース名>;dbtype=sqlserver </div> 例 : <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> dbname=amsqldb;dbtype=sqlserver </div> ■ Oracle : <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> dbname=<DBMSレベルでのAsset Managerデータベース名>;dbtype=oracle;sid=<database sid> </div> 例 : <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> dbname=amoradb;dbtype=oracle;sid=amordasid </div>

- 5 **【Test connection（接続のテスト）】** をクリックします。
接続が正常に作成されたかどうかを確認するメッセージが表示されます。
- 6 **【Next（次へ）】** をクリックします。
- 7 以下のスクリーンショットにあるボックスをチェックします。



 **注意:**

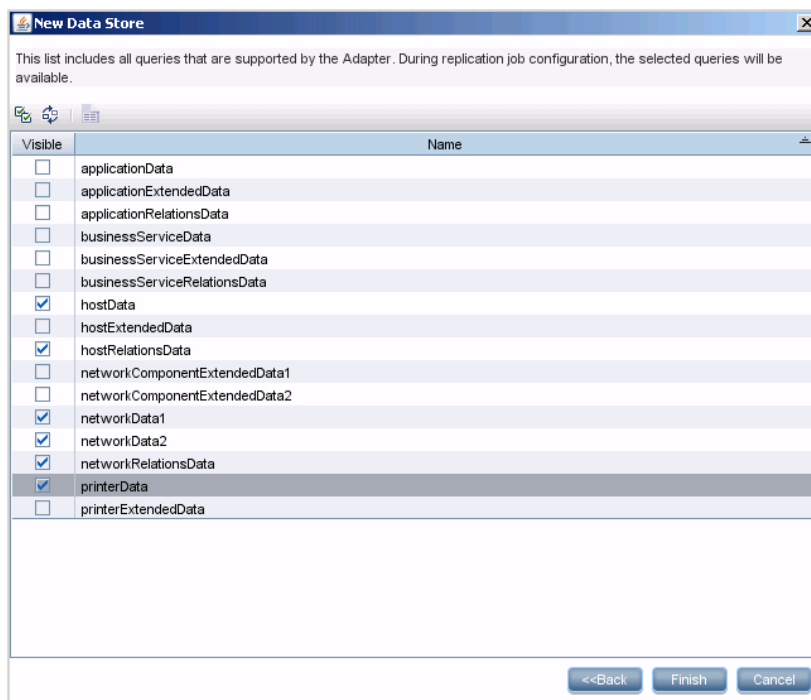
チェックしていないCIタイプは複製されます（ホストなど）。チェックしたCIタイプはフェデレーションされます。

 **警告:**

スクリーンショットに示されている通りにCIタイプを選択する必要があります。

選択内容を変更することはサポートされていません。

- 8 [**Next** (次へ)] をクリックします。
- 9 以下のスクリーンショットにあるボックスをチェックします。



- 10 [**Finish** (完了)] をクリックします。

Asset Manager複製ジョブの作成

- 1 インターネットブラウザを開いて、UCMDBサーバに接続します。

- 2 **[Settings (設定) / Federated CMDB (フェデレーションCMDB)]** を選択します。
- 3 **[Replication Jobs (複製ジョブ)]** タブで、**[*]** (新規複製ジョブ) をクリックします。
- 4 画面に以下の情報を入力します。

Replication Job

Name: am2ucmdb

Source Data Store: AMDBAdapter [Details](#)

Target Data Store: CMDB RMI Adapter [Details](#)

Replication job queries

Active	Name	Description	Permit deletion in target
<input checked="" type="checkbox"/>	hostData	hostData	<input checked="" type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/>	hostRelationsD...	hostRelationsData	<input checked="" type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/>	networkData1	networkData1	<input checked="" type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/>	networkData2	networkData2	<input checked="" type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/>	networkRelation...	networkRelation...	<input checked="" type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/>	printerData	printerData	<input checked="" type="checkbox"/>

OK Cancel

ヒント:

CMDB RMI Adapterが HP Service Manager-HP Universal CMDB 統合で作成されています。

▶ [SACM製品のインストール \[献 16\]](#)

- 5 **[OK]** をクリックします。
- 6 **[Schedule (スケジュール)]** タブで **[+]** をクリックして、am2ucmdbの新しいスケジュールジョブを作成します。
- 7 ジョブ定義の詳細を入力して、ジョブスケジューラの頻度を指定します。

- 8 **[OK]** をクリックします。

IP CIタイプの設定

デフォルトでは、IP CIタイプの **[IP is DHCP (IPがDHCP)]** (IP_isdhcp) 属性は表示されません。TQLで使用するには、可視に設定する必要があります。これを実行するには：

- 1 インターネットブラウザを開いて、UCMDBサーバに接続します。
- 2 **[Settings (設定) / CI Type Manager (CIタイプマネージャ)]** を選択します。
- 3 ナビゲーションツリーから、IP CIタイプ：**[IT Universe/ System/ Network Resource/ IP (ITユニバース/システム/ネットワークリソース/ IP)]** を選択します。
- 4 **[Attributes (属性)]** タブで **[IP is DHCP (IPがDHCP)]** 属性を選択し、**[Visible (可視)]** フィールドをチェックします。

HP Universal CMDBとHP Service Managerとの統合

概要

表 2.3. HP Universal CMDB - HP Service Manager統合の概要

統合の方向	HP Universal CMDBから HP Service Manager	HP Service Managerから HP Universal CMDB
統合テクノロジー	HP UCMDB ServiceDeskアダプタ	Web Services Call + HP UCMDB AM一般データベースアダプタ
統合操作	CIの複製	実際のステータスの取得
HP Universal CMDB アダプタ	ServiceDeskAdapter	AMDBAdapter

必要条件

HP Service Manager付属の『**HP Universal CMDB to HP Service Manager Integration Guide (HP Universal CMDBからHP Service Managerへの統合ガイド)**』の説明に沿って、HP Service Manager <-> HP Universal CMDB 統合のインストールと設定が済ませてある必要があります。

マッピングファイルの更新

すべてのレベルでCIを正しく照合更新するためには、HP Universal CMDBを介してAsset ManagerからHP Service Managerに**amPortfolio:AssetTag**を伝搬する必要があります。

HP Service Managerの照合更新がデフォルトでHP Service Manager **logical.name** フィールド上で行われるとき、このフィールドを使用してAsset Manager **amPortfolio:AssetTag** フィールドを格納する必要があります。

これには、以下の手順を実行します。

- 1 管理者としてHP Service Managerクライアントにログオンします
- 2 システムナビゲータの [カスタマイズ/ Webサービス/ WSDL設定] リンクを選択します。
- 3 [検索] ページで、 [オブジェクト名] パラメータの値として「**ucmdbComputer**」を入力します
- 4 [検索] をクリックします
- 5 1レコードが見つかるはずですが
- 6 [フィールド] タブを選択します
- 7 リストの終わりの後にある最初の空行をクリックして、以下の属性を持つ新規フィールドを追加します。
 - フィールド : **logical.name**
 - キャプション : **LogicalName**
- 8 [保存] をクリックします。
- 9 システムナビゲータの [カスタマイズ/ Webサービス/ DEM 調停ルール] リンクを選択します。
- 10 次の値を持つ新規レコードを追加します。
 - テーブル名 : **joincomputer**
 - フィールド名 : **UCMDB Id**
 - シーケンス : **1**
- 11 [新規] をクリックします
- 12 HP Universal CMDBサーバーでファイルを編集します
<HP Universal CMDBインストールフォルダ
>\UCMDBServer\j2f\fcmdb\CodeBase\ServiceDeskAdapter\host_data.xslt
- 13 **UCMDB host_systemassettag** フィールドとHP Service Manager **LogicalName** フィールド間のマッピングを追加して、**file.device** 部分を変更します。
file.device タグに以下のテキストを追加します。

```
<xsl:for-each select="@host_systemassettag">
<LogicalName><xsl:value-of select="."/></LogicalName>
</xsl:for-each>
```

変更後、**<file.device>**タグは以下のようにになっているはずです。

```
...
<file.device>
<!--import:cmdb_root_attributes.xslt-->
<xsl:choose>
<xsl:when test="@host_isdesktop='true'">
<Subtype>Desktop</Subtype>
</xsl:when>
<xsl:otherwise>
<xsl:for-each select="@friendlyType">
<Subtype><xsl:value-of select="."/></Subtype>
</xsl:for-each>
</xsl:otherwise>
</xsl:choose>
<xsl:for-each select="//sm_host">
<!--import:sm_device_attributes.xslt-->
</xsl:for-each>
<xsl:for-each select="@host_os">
<OS><xsl:value-of select="."/></OS>
</xsl:for-each>
<xsl:for-each select="@host_dnsname">
<DNSName><xsl:value-of select="."/></DNSName>
</xsl:for-each>
<xsl:for-each select="@host_systemassettag">
<LogicalName><xsl:value-of select="."/></LogicalName>
</xsl:for-each>
</file.device>
...
```

14 **ServiceDeskAdapter**を使用するデータストアを再度読み込み、これらの変更を反映します。

- 1 UCMDB Serverでインターネットブラウザを開いて、UCMDB Serverに接続します。
- 2 **[Settings (設定) / Federated CMDB (フェデレーションCMDB)]** を選択します。
- 3 HP Universal CMDB -> HP Service Manager統合で使用する **ServiceDeskAdapter** アダプタを選択します。
- 4 リストのアダプタを右クリックし、**[Reload adapter (アダプタの再読み込み)]** を選択します。

ucmdbIntegration Webサービスの設定

HP Universal CMDBアダプタはucmdbIntegration Webサービスに依存します。このWebサービスを設定する必要があります。

- 1 HP Service Managerクライアントを起動し、ナビゲーションバーから【メニューナビゲーション/カスタマイズ/Webサービス/WSDL設定】を選択します。
- 2 [サービス名] フィールドに「ucmdbIntegration」と入力します。
- 3 [オブジェクト名] フィールドに「ucmdbComputer」と入力します。
- 4 [検索] をクリックします。
- 5 [フィールド] タブを選択します。
- 6 リストの終わりの後にある最初の空行をクリックして、新規フィールドを追加します。

フィールド	キャプション
logical.name	LogicalName

- 7 [保存] をクリックします。

実際のステータスの取得の設定

概要

実際のステータスは、Asset Managerで検出された通りのCIに関する詳細を示します。これは、HP Service Managerでは、CIの【実際のステータス】タブに表示されます。

CIの実際のステータスは、HP Service Managerの【管理ステータス】およびその他のタブに表示される管理ステータス情報と比較できます。

デフォルトでHP Universal CMDBは、HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryを通じてCIの実際のステータスを取得するように設定されています。

SACM統合を実装すると、実際のステータスはHP Discovery and Dependency Mapping Inventoryからではなく、Asset Managerから取得する必要があります。

前提条件

HP Service Managerに付属の『**HP Universal CMDB to HP Service Manager Integration Guide (HP Universal CMDBからHP Service Managerへの統合ガイド)**』の説明に沿って、実際のステータスを展開する必要があります。

実際のステータスの取得の設定

HP Service Managerの実際のステータスがHP Discovery and Dependency Mapping Inventoryではなく、Asset Managerデータベースをポイントするようにするには、<UCMDBパス>\UCMDBServer\j2f\fcmdb\CodeBase\ServiceDeskAdapter\webserviceAdapters.xml ファイルを更新します。

変更前 : <adapter name="EDDBAdapter"> 変更後 : <adapter name="AMDBAdapter">

これにより、ファイルのアダプタリストに以下のエントリが加わるはずですが。

```
<adapters>
<!-- The names of all the data stores that are defined in CMDB and should be used for the SM web service should be listed here -->
<adapter name="AMDBAdapter"/>
</adapters>
```

注意:

このファイル内のアダプタの名前は、前の手順で作成したAsset Managerアダプタの名前である必要があります。

▶ [Asset Managerアダプタの作成 \[献 29\]](#)

実際のステータス情報は作成されるか、フェデレーションデータと複製データの両方です。

デフォルトでは、HP Service Managerは（HP Universal CMDBからではなく）Asset Managerから複製された実際のステータスを取得します。

<adapter name="AMAdapter"/>タグに**owner**属性の追加や変更により、このデフォルトの動作を変更できます。

- **owner=yes**であれば、HP Service ManagerはAsset Managerから実際のステータスを取得します
- **owner=no**であれば、HP Service ManagerはHP Universal CMDBから実際のステータスを取得します

例 :

```
<adapters>
<adapter name="AMAdapter" owner=no/>
</adapters>
```

実際のステータスで取得される属性のカスタマイズ

Root\Integration\SM Queryに格納されているTQLを使用して、Webサービス経由でHP Universal CMDBからデータを取得します。

取得される属性のリストはカスタマイズできます。

- 1 インターネットブラウザを開いて、UCMDBサーバに接続します。

- 2 **【Modeling（モデリング）】** タブを表示します。
- 3 **【Modeling（モデリング）】** メニューから **【Query Manager（クエリマネージャ）】** を選択します。
- 4 **Root\ Integration\ SM Query** メニューを展開します。
- 5 カスタマイズするCIタイプに対応するTQLを選択します（**hostExtendedData** など）。
- 6 カスタマイズするCIタイプを右クリックして、**【Node Properties（ノードプロパティ）】** エントリを選択します。
- 7 **【Advanced layout settings（詳細レイアウト設定）】** をクリックします。
- 8 **【Layout Settings（レイアウト設定）】** ウィンドウに、実際のステータスで取得できる属性がリストされます。
取得される属性がチェックされています。
- 9 チェックされた属性が<HP Universal CMDBインストールフォルダ>\j2f\fcmdb\CodeBase\AMDBAdapter\META-INF\orm.xmlファイルがあれば、属性のチェックのオン、オフを切り替えることで、表示される属性の選択内容を変更できます。
orm.xmlファイルを変更することで、この要件を満たせます。
この動作の仕組みについては、HP Universal CMDBマニュアルを参照してください。

HP Universal CMDBとAsset Managerとの統合

概要

表 2.4. HP Universal CMDB - Asset Manager統合の概要

統合の方向	HP Universal CMDBからAsset Manager
統合テクノロジー	HP Connect-It
複製されるデータ	ビジネスサービス
HP Connect-Itシナリオ	ucmdbam-bc.scn

ビジネスサービス属性とモデルの作成

これは、HP Universal CMDBからAsset Managerにビジネスサービスを複製するHP Connect-Itシナリオに必要です。

- 1 Asset Managerクライアントを起動します。
- 2 Asset Managerデータベースに接続します。

- 属性を表示します（ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/属性] リンク）。
- 以下の値を持つ新規属性を作成します。

フィールドラベル	フィールドSQL名	値
コード	Code	BIZSVC
bSystem	ビジネスサービス	このボックスをチェック

- モデルを表示します（ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/モデル] リンク）。
- 以下の値を持つ新規モデルを作成します。

フィールドラベル	フィールドSQL名	値
名前	Name	適切な名前。ビジネスサービスなど
バーコード	BarCode	SER000022
属性	Nature	amNature:Code = BIZSVC の属性を選択します

ビジネスサービスTQLの展開

- <Asset Managerインストールフォルダ>\integrations\sacm\AM Business Services integration.zipファイルをコピーします。
- これを<HP Universal CMDBインストールフォルダ>\root\lib\customer_packages フォルダにコピーします。
- UCMDB Serverでインターネットブラウザを開いて、UCMDB Serverに接続します。
- [**Settings** (設定)] タブが表示されます。
- [**Settings** (設定)] メニューから [**Package Manager** (パッケージマネージャ)] を選択します。
- パッケージ名が**AM Business Services integration (AMビジネスサービス統合)**であるエントリを選択します。
- アダプタを展開します（エントリを右クリックし、 [**Deploy Packages to Server (from local disk)** (サーバにパッケージを展開 (ローカルディスクから))] を選択します）。
- 「+」をクリックして<HP Universal CMDBインストールフォルダ>\root\lib\customer_packages\AM Business Services integration.zipファイルを選択します
- [**開く**]、 [**OK**] の順にクリックします。
展開に**BusinessServices** TQLが追加されます。

- 10 TQLが展開されたことを確認します。
- a **【Modeling (モデリング) / Query Manager (クエリマネージャ)】**を選択します。
 - b **【Root (ルート) / Integration (統合) / AM Sync (AM同期)】**を選択します。
- リストにBusinessServices TQLが表示されるはずですが、

HP Connect-Itシナリオの設定

以下のコネクタがシナリオで使用されます。これらを設定する必要があります。

- Asset Manager
- HP Universal CMDB (Java)

注意:

このコネクタを構成するには、**【Universal CMDB business model definition (ユニバーサルCMDBビジネスモデル定義)】** ページの **【Configuration file (設定ファイル)】** フィールドに入力する方法の理解が必要な場合があります。

これは、<HP Connect-Itインストールフォルダ>\datakit\ucmdb\ucmdb8フォルダにあるBusinessServices.xmlの場所です。

コネクタの構成方法については、HP Connect-Itの『コネクタ』ガイドを参照してください。

シナリオの実行のスケジュール

HP Connect-It内のスケジューラを定義して、シナリオの実行をスケジュールできます。これには2通りの方法があります。

- ▶ HP Connect-It 『ユーザガイド』の「統合シナリオのインプリメンテーション」の章を参照してください。

HP Service ManagerとAsset Managerとの統合

概要

表 2.5. Asset Manager - HP Service Manager統合の概要

統合の方向	Asset Managerから HP Service Manager	HP Service ManagerからAsset Manager
統合テクノロジー	HP Connect-It	HP Connect-It
複製されるデータ	<ul style="list-style-type: none">■ amsm-ppt.scn:<ul style="list-style-type: none">■ 会社■ ベンダ■ 場所■ 部署■ 連絡先■ モデル■ 在庫倉庫■ CI、連絡先、モデル、ベンダ、場所、部署間のリンク■ amsm-ci-ppt-link.scn<ul style="list-style-type: none">■ CI、連絡先、モデル、ベンダ、場所、部署間のリンク	<ul style="list-style-type: none">■ smam-ppt.scn:<ul style="list-style-type: none">■ 会社■ ベンダ■ 場所■ 部署■ 連絡先■ モデル■ 在庫倉庫■ smam-wo.scn:<ul style="list-style-type: none">■ 変更とタスク
HP Connect-Itシナリオ	<ul style="list-style-type: none">■ amsm-ppt.scn■ amsm-ci-ppt-link.scn	<ul style="list-style-type: none">■ smam-ppt.scn■ smam-wo.scn

重要項目:

これらのシナリオはCIを作成しません。CIはAsset Manager内で直接作成されるか、HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryで作成されてAsset Managerで複製されます。

Asset Manager CIはHP Universal CMDBに複製/フェデレーションされます。
HP Universal CMDB CIはHP Service Managerに複製されます。

SACMIntegration Webサービスの追加

HP Connect-ItシナリオはSACMIntegration Webサービスに依存します。このWebサービスをHP Service Managerに追加する必要があります。

- 1 HP Service Managerクライアントを起動し、ナビゲーションバーから [メニューナビゲーション/カスタマイズ/データベースマネージャ] を選択します。
- 2 [データベースマネージャ] 画面で右クリックし、[インポート/ロード] メニューエントリを選択します。
- 3 [ファイル名] に「<HP Connect-Itインストールフォルダ>\datakit\sc\sm71\SACMIntegration.unl」と入力します。
- 4 [フォアグラウンドでロード] をクリックします。
- 5 システムナビゲータから [メニューナビゲーション/カスタマイズ/Webサービス/WSDL設定] を選択します。
[サービス名] フィールドに「SACMIntegration」と入力します。
[検索] をクリックします。
先頭にSACMが付記されたエントリのリストが表示されることを確認します。

各PPTタイプの参照データベースの定義

デフォルトでは、提供されているHP Connect-Itシナリオは同じPPTタイプをAsset ManagerからHP Service Managerへ、およびHP Service ManagerからAsset Managerへ転送します。

シナリオをそのまま実装することはできません。データの複製が循環してしまうためです。

このため、Asset ManagerまたはHP Service Managerデータベースのどちらかが各PPTタイプの参照データを格納するのかが決める必要があります。

- 会社
- ベンダ
- 場所
- 部署
- 連絡先
- モデル
- 在庫倉庫

選択したら、一致する構成を選択します。

- すべてのPPTタイプの参照データベースがAsset Managerの場合：
 - amsm-ppt.scnを使用して、PPTをAsset ManagerからHP Service Managerに転送します。
 - smam-ppt.scnは使用しないでください。

- `amsm-ci-ppt-link.scn`は使用しないでください。CIと連絡先、モデル、ベンダ、場所、および部署間のリンクが`amsm-ppt.scn`シナリオによって管理されるためです。
- `smam-wo.scn`を使用して、変更とタスクを転送します。
- すべてのPPTタイプの参照データベースがHP Service Managerの場合：
 - `smam-ppt.scn`を使用して、PPTをAsset ManagerからHP Service Managerに転送します。
 - `amsm-ppt.scn`は使用しないでください。
 - `amsm-ci-ppt-link.scn`を使用して、CIと連絡先、モデル、ベンダ、場所、および部署間のリンクを転送します。
 - `smam-wo.scn`を使用して、変更とタスクを転送します。
- PPTタイプの参照データベースがPPTタイプに応じて、Asset ManagerまたはHP Service Manager間の混合ソリューションである場合：
 - `smam-ppt.scn`をカスタマイズして、HP Service Managerで参照されるPPTがAsset Managerに転送されるようにします。
 - `amsm-ppt.scn`をカスタマイズして、Asset Managerで参照されるPPTがHP Service Managerに転送されるようにします。
 - `amsm-ci-ppt-link.scn`は使用しないでください。CIと連絡先、モデル、ベンダ、場所、および部署間のリンクが`amsm-ppt.scn`シナリオによって管理されるためです。
 - `smam-wo.scn`を使用して、変更とタスクを転送します。

HP Connect-Itシナリオのカスタマイズ方法の詳細については、▶HP Connect-Itガイドである『ユーザーガイド』の「統合シナリオのインプリメンテーション」の「ドキュメントタイプのマッピングの定義」を参照してください。

Asset Managerデータベースの準備

HP Connect-Itシナリオを正しく実行できるようにするには、Asset Managerデータベースにいくつかのデータが必要です。

以下の専門分野データを既にインポートしている場合を除いて、以下の指示に従ってください。

- ファイナンス - 専門分野データ (TCO-予算-経費付替え)
 - 共有データ
- 1 Asset Manager Application Designerを実行します。
 - 2 [ファイル/開く] メニュー項目を選択します。
 - 3 [データベース記述ファイルを開く (新規データベースの作成)] オプションを選択します。
 - 4 Asset Managerインストールフォルダの`config`サブフォルダにある、`gbbase.xml`ファイルを選択します。

- 5 データベース作成ウィザードを開始します（[アクション/データベースの作成] メニュー）。
- 6 次のようにウィザードのページを入力します（ウィザードページを移動するには、[次へ] または [戻る] ボタンを使用します）。
[SQLスクリプトの生成/データベースの作成] ページ：

フィールド	値
データベース	専門分野データのインポート先にするデータベースへの接続を選択します。
作成	専門分野データをインポート
高度な作成オプションを使用	このオプションは選択しないでください。

[作成パラメータ] ページ：

フィールド	値
パスワード	管理者パスワードを入力します。
	<p>注意:</p> <p>Asset Managerデータベース管理者は、[部署名/姓] (Name) フィールドがAdminに設定された[部署と従業員] (amEmplDept) テーブル内のレコードです。</p> <p>データベース接続ログインが[ユーザ名] (UserLogin) フィールドに保存されます。管理者名はAdminです。</p> <p>パスワードは[パスワード] (LoginPassword) フィールドに格納されます。</p>

[インポートするデータ] ページ：

フィールド	値
使用可能データ	次のオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ ファイナンス - 専門分野データ (TCO-予算-経費付替え) ■ 共有データ
エラー発生時にインポートを中止	エラーが発生した場合にインポートを中止するには、このオプションを選択します。
ログファイル	エラーと警告を含む、すべてのインポート操作が記録されるファイルの完全名。

- 7 ウィザードを使用して定義したオプションを実行します（[完了] ボタン）。



注意:

- ファイナンス-専門分野データ (TCO-予算経費付替え) : これは、HP Connect-It シナリオで必要となる属性を作成するのに必要です (**amNature:Code = TCO_WORK_UNIT**)。
- 共有データ : これは、HP Connect-Itシナリオで必要となる属性を作成するのに必要です (HP Service ManagerからAsset Managerにモデルを転送するのに **ScToAcNature** マップテーブルで使用されます)。

HP Connect-Itシナリオの設定

以下のコネクタがシナリオで使用されます。これらを設定する必要があります。

- Asset Manager
- HP Universal CMDB (Java)

HP Universal CMDBコネクタについて [**Define the connection parameters** (接続パラメータの定義)] ページで、デフォルト値を、必要に応じてBusinessServices.xmlの場所をそれぞれカスタマイズします。

コネクタの構成方法については、HP Connect-Itの『コネクタ』ガイドを参照してください。

シナリオの実行のスケジュール

HP Connect-It内のスケジューラを定義して、シナリオの実行をスケジュールできます。これには2通りの方法があります。

- ▶ HP Connect-It 『ユーザガイド』の「統合シナリオのインプリメンテーション」の章を参照してください。

3 テクニカルリファレンス

概要

この章では、SACM統合に関し、各データベースでどのデータオブジェクトがどのシナリオやアダプタから取得されマップされるかについて、およびデータ転送が正しく行われるのに使用される照合更新キーと必要になる特別な要件について説明します。

フィールド、リンク、またはインデックスを表わすフォーマット：

データベース	フォーマット
Asset Manager	<テーブルSQL名>:<フィールド、リンク、またはインデックスのSQL名>
HP Service Manager (Asset ManagerからHP Service Managerにデータを転送する場合)、およびHP Discovery and Dependency Mapping Inventory	<テーブル名>:<フィールド、リンク、またはインデックス名>
HP Universal CMDB	<CIタイプ>:<属性名>

HP Discovery and Dependency Mapping Inventory -> Asset Manager

HP Discovery and Dependency Mapping Inventory -> Asset Manager統合の概要

▶ 概要 [献 19]

HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryがスキャンしたコンピュータ、エージェントがないコンピュータ、およびネットワークデバイス（ネットワークプリンタ含む）に使用する照合更新キー

- 1 HP Connect-Itは、与えられたシリアル番号（amAsset:SerialNo）+モデル（amAsset:Model）を持つ既存資産を検索します。
レコードが見つからない場合、HP Connect-Itは次のキーを試行します。
1レコードが見つかった場合、HP Discovery and Dependency Mapping InventoryレコードはAsset Managerレコードと照合更新されます。
2以上のレコードが見つかった場合、HP Connect-ItはAsset Manager内でレコードの更新や作成を行いません
- 2 HP Connect-Itは、与えられた資産タグ（amAsset:AssetTag）を持つ既存資産を検索します。
レコードが見つからない場合、HP Connect-Itは次のキーを試行します。
1レコードが見つかった場合、HP Discovery and Dependency Mapping InventoryレコードはAsset Managerレコードと照合更新されます。
2以上のレコードが見つかった場合、HP Connect-ItはAsset Manager内でレコードの更新や作成を行いません
- 3 HP Connect-Itは、与えられたドメイン/グループ（amComputer:Workgroup）+名前（amComputer:Name）を持つ既存IT機器を検索します。
レコードが見つからない場合、HP Connect-ItはAsset Managerに新しいIT機器を作成します。
1レコードが見つかった場合、HP Discovery and Dependency Mapping InventoryレコードはAsset Managerレコードと照合更新されます。
2以上のレコードが見つかった場合、HP Connect-ItはAsset Manager内でレコードの更新や作成を行いません

Asset Manager **amComputer:ComputerType** フィールドの値


HP Discovery and Dependency Mapping Inventory **Device:DeviceCategory** フィールドを使用して Asset Manager **amComputer:ComputerType** フィールドを設定し、さらに、このフィールドを使用して HP Universal CMDB CIタイプを選択します（以下の表を参照）。

表 3.1. **DeviceCategory_ID** -> コンピュータのタイプ -> **CI**タイプマッピング

HP Discovery and Dependency Mapping Inventory	Asset Manager	HP Universal CMDB
Device:DeviceCategory_ID フィールド	amComputer:ComputerType フィールド	CI Type (1つの Asset Manager CIに対して、HP Universal CMDBに1つまたは複数の CI が作成されます。この列には作成されるCIのCIタイプがリストされます)。
1000000028, 1000000050, 1000000051, 1000000119, 1000000128, 1000000129, 1000000135, 1000000136, 1000000138, 1000000139, 1000000154, 1000000159, 1000000160, 1000000161, 1000000162, 1000000170, 1000000173	Windowsコンピュータ	nt, sm_host, memory, cpu
1000000033, 1000000034, 1000000035, 1000000048, 1000000115, 1000000137, 1000000171	Windowsデスクトップコンピュータ	nt, sm_host, memory, cpu
1000000113, 1000000133	モデム	sm_modem, memory, cpu
1000000003, 1000000053, 1000000130, 1000000132, 1000000144	ルータ	router, sm_network_component_ext, memory, cpu
1000000020, 1000000058, 1000000060, 1000000073, 1000000076, 1000000122, 1000000127	ゲートウェイ	sm_gateway, memory, cpu
1000000006, 1000000017, 1000000023, 1000000061	ハブ	sm_hub, memory, cpu
1000000011, 1000000012, 1000000013, 1000000126, 1000000157	ネットワークプリンタ	sm_printer, netprinter, memory, cpu
1000000032	メインフレーム	mainframe, sm_host, memory, cpu
1000000007, 1000000018, 1000000024, 1000000025, 1000000040, 1000000041, 1000000052, 1000000059, 1000000072, 1000000078, 1000000079, 1000000080, 1000000089, 1000000090, 1000000094, 1000000100	ネットワークコンポーネント	sm_network_component, memory, cpu

HP Discovery and Dependency Mapping Inventory	Asset Manager	HP Universal CMDB
Device:DeviceCategory_IDフィールド	amComputerComputerTypeフィールド	CI Type (1つのAsset Manager CIに対して、HP Universal CMDBに1つまたは複数のCIが作成されます。この列には作成されるCIのCIタイプがリストされません)。
1000000016, 1000000054	ATMスイッチ	atmswitch, sm_network_component_ext, memory, cpu
1000000001, 1000000010, 1000000022, 1000000026, 1000000027, 1000000030, 1000000031, 1000000062, 1000000063, 1000000074, 1000000075, 1000000081, 1000000082, 1000000085, 1000000086, 1000000103, 1000000107, 1000000108, 1000000111, 1000000134, 1000000149, 1000000150, 1000000152, 1000000155, 1000000168, 1000000174	コンピュータサーバ	host_node, sm_host, memory, cpu
1000000004, 1000000036, 1000000064, 1000000095, 1000000143, 1000000145, 1000000146, 1000000148, 1000000153, 1000000156	デスクトップコンピュータ	host_node, sm_host, memory, cpu
1000000029, 1000000151	Unixサーバコンピュータ	unix, sm_host, memory, cpu
1000000037, 1000000147	Unixデスクトップコンピュータ	unix, sm_host, memory, cpu
1000000021	ファイアウォール	firewall, sm_network_component_ext, memory, cpu
1000000005, 1000000009, 1000000015, 1000000055, 1000000056, 1000000057, 1000000093, 1000000096, 1000000098, 1000000099, 1000000102, 1000000104, 1000000116, 1000000142, 1000000167	スイッチ	switch, sm_network_component_ext, memory, cpu
その他の値	コンピュータ	host_node, sm_host, memory, cpu

HP Discovery and Dependency Mapping Inventory	Asset Manager	HP Universal CMDB
Device:DeviceCategory_ID フィールド	amComputer:ComputerType フィールド	CI Type (1つのAsset Manager CIに対して、HP Universal CMDBに1つまたは複数のCIが作成されます。この列には作成されるCIのCIタイプがリストされます)。
	仮想マシン (Asset Managerで直接作成)	host_node, sm_host, memory, cpu
	VMWare ESX Server (Asset Managerで直接作成)	nt, sm_host, memory, cpu
	VMWare VirtualCenter (Asset Managerで直接作成)	nt, sm_host, memory, cpu
	ラップトップ (Asset Managerで直接作成)	host_node, sm_host, memory, cpu
	Solaris Zone Server (Asset Managerで直接作成)	unix, sm_host, memory, cpu

 **注意:**

HP Universal CMDBで、CIタイプは**Host is desktop** (ホストがデスクトップ) または**Host is virtual** (ホストが仮想) としてもフラグ付けされます。▶ [一部のCI属性の定義方法 \[献 58\]](#)

Device:DeviceCategory_ID値をその他の**amComputer:ComputerType**値に関連付けることができますが、**amComputer:ComputerType**に定義されている値は維持する必要があります。

これは、<HP Connect-Itインストールフォルダ>\config\ed\ddmi75\mpt\ddmi.mptファイル (**DeviceCategoryAMComputerType**マッピングテーブル) で行います。

▶ HP Connect-Itガイドである『ユーザガイド』の「統合シナリオのインプレメンテーション」の「マッピングスクリプトの定義、関連ファイルの編集、マッピングテーブル」。

Asset Managerポートフォリオ品目にモデルをリンクするのに使用する照合更新キー

以下の照合更新キーを使用して、Asset Managerポートフォリオ品目をモデルにリンクします。

Asset Managerのキー	Asset Managerキーで検索するHP Discovery and Dependency Mapping Inventory値
ポートフォリオ品目が仮想マシンの場合	
amModel:Name	[VMInformation.VMHost.Host_Type]
ポートフォリオ品目が仮想マシンではない場合	
amModel:Name	[hwSMBIOShwSmbiosSystemInformation.OhwSmbiosProductName], [hwBiosData.hwBiosMachineModel], [Model.Model_Name], [DeviceCategory.DeviceCategory_Description]

Asset Manager分類モデルにモデルをリンクするのに使用する照合更新キー

ポートフォリオ品目に関連付けられているモデルは、分類のために使用されるモデルにリンクされます。

以下の照合更新キーを使用して、分類モデルをAsset Managerモデルにリンクします。

ポートフォリオ品目が仮想マシン、または仮想マシンホストではない場合

Asset Managerのキー	Asset Managerキーで検索するHP Discovery and Dependency Mapping Inventory値
amModel:BarCode	HP Connect-Itは、HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryで amProdClassCode:UnspscKey = DeviceCategory:UNSPSC_ID であるAsset Managerレコードを検索します。 該当するレコードが見つかり、HP Connect-Itは amProdClassCode テーブル内で、UNSCPSCレコードに関連付けられたモデルを検索します。 このモデルが、ポートフォリオ品目 (amModel:Parent リンク) に関連付けられたモデルの分類モデルとして使用されるモデルです。

ポートフォリオ品目が仮想マシンの場合

ポートフォリオ品目モデルは、**amModel:BarCode = VMCPU**の親モデルにリンクされます

ポートフォリオ品目が仮想マシンホストの場合

ポートフォリオ品目モデルは、**amModel:BarCode = SERVER**の親モデルにリンクされます

Asset Managerポートフォリオモデルにリンクされる属性

ケース	Asset Manager属性
ポートフォリオ品目が仮想マシンの場合	amNature:Code = CPUVM の属性
ポートフォリオ品目が仮想マシンではない場合	amNature:Code = CPU の属性

ネットワークカードにポートフォリオ品目をリンクするのに使用する照合更新キー

ポートフォリオ品目は、以下の照合更新キーを使用してネットワークカードにリンクされます。

Asset Managerのキー	Asset Managerキーで検索するHP Discovery and Dependency Mapping Inventory値
amNetworkCard:PhysAddress	1 hwNetworkDatahwNetworkCardshwNICPhysicalAddress 2 [hwNetworkDatahwNetworkNameshwLocalMachineID] & " - " & [hwNetworkDatahwNetworkCardshwNetworkCards_Seq], else "N / A" & " - " & [hwNetworkDatahwNetworkCardshwNetworkCards_Seq]

Asset Manager -> HP Universal CMDB

Asset Manager > HP Universal CMDB統合の概要

▶ 概要 [献 23]

CIはフェデレーションされるか、複製されるか?

CIは複製またはフェデレーションされます。これは、CIタイプによって異なります。

Asset ManagerからHP Universal CMDBに、どのCIタイプがフェデレーションされ、どのCIタイプが複製されるのかを理解するには：

- 1 UCMDBサーバーを起動します。
- 2 インターネットブラウザを開いて、UCMDBサーバに接続します。
- 3 **[Settings (設定) / Federated CMDB (フェデレーションCMDB)]** メニューオプションを選択します。
- 4 アダプタのリストにある**AMDBAdapter**を選択します。
- 5 **[Supported CI Types (サポートされるCIタイプ)]** タブが表示されます。

- 6 チェックボックスがチェックされているCIタイプがフェデレーションされます。その他のCIタイプは複製されます。



警告:

これらの選択への変更はサポートされていません。

データフェデレーションと複製の定義については：▶フェデレーション [献 75]
および複製 [献 76]

amComputerレコードがHP Universal CMDBに複製される条件は?

以下の条件が成り立つ場合にamComputerレコードが複製されます。

- amComputerレコードにリンクされているポートフォリオ品目が使用中（amPortfolio:seAssignment = 使用中）。
- amComputerレコードが、amNetworkCard:TcplpAddressおよびamNetworkCard:PhysAddressフィールドが入力されている、少なくとも1つのネットワークカードにリンクされている（amComputer:NetworkCardsリンク）。
- amComputerレコードのamComputer:ComputerTypeフィールドが、表 DeviceCategory_ID -> コンピュータのタイプ -> CIタイプマッピング [献 49] の2番目の列に存在する値を持つ必要があります。

差分複製が使用可能か?

HP Universal CMDBには2種類の複製が備わっています。

- 完全複製：すべてのAsset Manager CIの複製が行われます。
- 差分複製：最後の完全複製ジョブ、または差分複製ジョブの実行後にCIが作成、または更新された場合のみ、Asset Manager CIの複製が行われます。

更新の場合、複製ジョブはHP Universal CMDB **host.root_updatetime** フィールド（Asset Managerの**amComputer.dtLastModif** フィールドにマップ済み）と、最後の完全複製ジョブ、または差分複製ジョブの実行時刻とを比較します。

作成の場合、複製ジョブはHP Universal CMDB **host.root_createtime** フィールド（Asset Managerの**amPortfolio.dtSACMCreate** フィールドにマップ済み）と、最後の完全複製ジョブ、または差分複製ジョブの実行時刻とを比較します。

差分複製ジョブは、完全複製ジョブよりも短時間で完了します。

差分複製には弱点があります。その他のテーブル（特に**amAsset**および**amPortfolio**）でCIが記述されている場合でも、**amComputer**テーブルでフィー

ルドやリンクが変更された場合のみ、Asset Managerで
amComputer.dtLastModifが更新されます。

例えば、CIの**amPortfolio.seAssignment**フィールドが変更されても、**amComputer**でフィールドが変更されない場合、**amComputer.dtLastModif**は更新されません。

このため、Asset Managerデータベースのすべての変更を反映するため、完全複製を定期的に行うことを推奨します。

Asset Managerで変更があっても、差分複製では捕捉できないフィールドすべてのリストを以下に挙げます。

Asset Managerフィールド	CIタイプ	対応するHP Universal CMDB属性
amPortfolio.seAssignment	ホスト	data_note
amModel.Name	ホスト	host_model
amAsset.SerialNo	ホスト	host_serialnumber
amAsset.Description	ホスト	data_description
amBrand.Name	ホスト	host_manufacturer
amEmplDept.Name + amEmplDept.FirstName	SMデバイス	contact_name
amEmplDept.MobilePhone	SMデバイス	contact_cellphone
amEmplDept.title	SMデバイス	title
amEmplDept.Phone	SMデバイス	contact_telephone
amAsset.SerialNo	SMデバイス	bios_serialnumber
amCostCenter.title	SMデバイス	cost_center
amLocation.City + amCountry.Name	SMデバイス	location
amLocation.Name	SMデバイス	room
amLocation.Name	SMデバイス	floor
amLocation.Name	SMデバイス	building
amEmplDept.Name	SMデバイス	department
amNetworkCard.DefaultGateway	SMデバイス	default_gateway
amNetworkCard.DNSSuffixes	SMデバイス	domain_suffix
amModel.Name	SMホスト	bios_model
amAsset.sMaxCnxCount	SMベースネットワークコンポーネント	number_of_ports
amBrand.Name	SMベースネットワークコンポーネント	manufacturer
amPortfolio.seAssignment	SMネットワークコンポーネント	data_note
amModel.Name	SMネットワークコンポーネント	model
amAsset.Description	SMネットワークコンポーネント	data_description
amNetworkCard.bDHCPEnabled	IP	ip_isdhcp
amNetworkCard.DHCPsServer	IP	is_dhcpdomainname
amNetworkCard.TcpIpAddress	IP	ip_address

Asset Managerフィールド	CIタイプ	対応するHP Universal CMDB属性
amNetworkCard.SubnetMask	IP	ip_netmask
amNetworkCard.PhysAddress	ネットワークインタフェース	interface_macaddr
amNetworkCard.Description	ネットワークインタフェース	interface_description
amPortfolio.seAssignment	ネットワークインタフェース	data_note

HP Universal CMDBで作成される項目

1つのCIがAsset ManagerからHP Universal CMDBに複製、またはフェデレーションされる場合：

- HP Universal CMDBにCIが1つ作成されます。
そのCIタイプは**amComputer:ComputerType**フィールドの値によって異なります。
▶ [Asset Manager amComputer:ComputerTypeフィールドの値 \[献 49\]](#)
- Asset Manager CIに添付される**amComputer:NetworkCards**コレクション内の各レコードについて、HP Universal CMDBでIPとネットワークインタフェースの2つのCIタイプが作成されます。

Asset Manager **amNetworkCard**テーブルから属性をマッピングすることで、IPとネットワークインタフェースのCIが作成されます。

- IP CIの作成には**amNetworkCard:TcplpAddress**が使用されます。
- ネットワークインタフェースCIの作成には**amNetworkCard:PhysAddress**が使用されます。

警告:

2つのAsset Manager CIが同じ値の**amComputer:PhysicalAddress**を持つ場合、HP Universal CMDBで2つのsm_host CIにリンクされた1つのホストCIが作成されます。

ルートCIタイプの作成/更新のための照合更新キー

Asset ManagerからHP Universal CMDBに照合更新すると、hostとsm_network_componentの2つのCIタイプが作成されます。

CI Type = hostの場合：

HP Universal CMDBのキー	HP Universal CMDBキーで検索する Asset Manager値
host:host_key	ホストに取り付けられているネットワークカードの最小の amNetworkCard:PhysAddress の値

CI Type = sm_network_componentの場合：

HP Universal CMDBのキー	HP Universal CMDBキーで検索する Asset Manager値
sm_device:device_id	ネットワークカードのリンク先 amComputer レコードの amPortfolio.AssetTag の値

ルートCIタイプに添付されているCIタイプの作成/更新のための照合更新キー

If **CI Type = host**:

HP Universal CMDBのキー	HP Universal CMDBキーで検索する Asset Manager値
host:host_systemassettag	amAsset:AssetTag
最初のキーが見つからない場合：	amComputer:TcpIpAddress
ip:ip_address	

CI Type = sm_network_componentの場合：

HP Universal CMDBのキー	HP Universal CMDBキーで検索する Asset Manager値
sm_network_component:asset_tag	amAsset:AssetTag
最初のキーが見つからない場合：	amComputer:TcpIpAddress
ip:ip_address	

reconciliation_rules.txtファイルで定義されているルールを使用して、Asset Manager and HP Universal CMDB間の照合更新が行われます。

フェデレーションを使用して複製されたホストCIタイプに添付されているCPU CIを表示するときの、TQLの処理方法の例：

- orm.xmlマッピングファイルで定義されているCPU CIの属性がAsset Managerから取得されます
- reconciliation_rules.txtで定義されているCPU CIタイプの属性も (host:host_systemassettagおよびip:ip_address照合更新キーを使用して)、Asset Managerで取得されます。

この例のTQLをプレビューするときに実行される、照合更新のアルゴリズムは次の通りです：

CPUのhost_systemassettagが複製されたuCMDBホストのリストにある1つのhost_systemassettagと一致する場合、CPUはホストにリンクされます。それ以外の場合、CPUのip_ip_address (amComputerのTcpIpAddress) がuCMDBホストにリンクされたip CIのリストにある1つのip_addressと一致する場合、CPUは対応するホストにリンクされます。それ以外の場合、CPUはホストにリンクされません。

複製時にAsset Managerで変更が発生する場合の結果

- CIの**amPortfolio:seAssignment**フィールドの値が**使用中**ではない場合、対応するCIがすべての**container_f**と一緒にHP Universal CMDB uCMDBから削除されますが、関連付けられたIPはHP Universal CMDBに残されます。ただし、エイジングメカニズムが有効である場合、IPは寿命を迎えて消去されます。
- ただし、Asset ManagerからIT機器レコードが削除されても、以前に複製されたCIはHP Universal CMDBに残されます。
- コンピュータレコードの**amComputer:dtLastModif**フィールドが変更された場合のみ、**amPortfolio:seAssignment**の変更が考慮されます。
 - ▶ **amComputer**レコードがHP Universal CMDBに複製される条件は? [献 54]
- Asset Managerでネットワークカードが削除されると、HP Universal CMDBでは対応するIPとネットワークインタフェースのCIがホストから切り離されますが、HP Universal CMDB内で関連付けられるホストが無い状態のまま残りつづけます。
- Asset Managerで、IPアドレス (**amComputer:TcpIpAddress**) または物理アドレス (**amComputer:PhysicalAddress**) のいずれかを変更することでネットワークカードが更新されると、HP Universal CMDBで従来の項目が削除されないまま新しいIPまたは新しいネットワークインタフェースが作成されます。
- HP Universal CMDBへの複製後に、CIの**amAsset:AssetTag**を (host + linked sm_host CIとして) 変更すると、追加のsm_hostホストCIが作成され元のホストCIにリンクされます。
- CIがHP Universal CMDBに複製された後に、値 **amComputer:ComputerType**を変更すると、HP Universal CMDBから以前のCIを削除するまで次の複製が行えなくなります。

一部のCI属性の定義方法

CIタイプ

HP Universal CMDBにCIが複製される時、Asset Managerでの**amComputer:ComputerType**の値に従ってそのCIタイプが定義されます。

amComputer:ComputerTypeの値とHP Universal CMDB CIタイプ間のマッピングは、<HP Universal CMDBインストールフォルダ>\j2f\fmdb\CodeBase\AMDBAdapter\META-INF\discriminator.propertiesファイルで定義されます。

マッピングの概要については、「Asset Manager amComputer:ComputerType フィールドの値 [献 49]」を参照してください。

Host is Virtual (ホストが仮想)

HP Universal CMDBにCIが複製される時、Asset ManagerでのCIの**amComputer:ComputerType**の値に従って、CIの**Host is Virtual** (ホストが仮想) 属性が定義されます。

amComputer:ComputerTypeと**Host is Virtual** (ホストが仮想) 属性の値の間のマッピングは、以下のファイルで定義されます。

```
<HP Universal CMDBインストールフォルダ>\j2f\fmdb\CodeBase\AMDBAdapter\META-INF\server_virtual_distinguisher.properties
```

Asset Managerでの amComputer:ComputerType の値	HP Universal CMDBでの Host is Virtual (ホストが仮想) の値
仮想マシン	はい
<ul style="list-style-type: none"> ■ Windowsコンピュータ ■ Windowsデスクトップコンピュータ ■ VMware Virtual Center ■ VMware ESX server ■ Unixサーバコンピュータ ■ Unixデスクトップコンピュータ ■ Solaris Zone Server ■ デスクトップコンピュータ ■ コンピュータサーバ ■ ラップトップ ■ メインフレーム ■ ATMスイッチ ■ ファイアウォール ■ ルータ ■ スイッチ ■ ネットワークプリンタ 	いいえ

Host is Desktop (ホストがデスクトップ)

HP Universal CMDBにCIが複製される時、Asset ManagerでのCIの**amComputer:ComputerType**の値に従って、CIの**Host is Desktop** (ホストがデスクトップ) 属性が定義されます。

amComputer:ComputerTypeと**Host is Desktop**（ホストがデスクトップ）属性の値の間のマッピングは、以下のファイルで定義されます。

<HP Universalインストールディレクトリ

>\j2f\fcmdb\CodeBase\AMDBAdapter\META-INF\server_desktop_distinguisher.properties

Asset Managerでの amComputer:ComputerType の値	HP Universal CMDBでの Host is Desktop （ホストがデスクトップ）の値
<ul style="list-style-type: none"> ■ Windowsデスクトップコンピュータ ■ Unixデスクトップコンピュータ ■ デスクトップコンピュータ 	はい
<ul style="list-style-type: none"> ■ Windowsコンピュータ ■ VMware Virtual Center ■ VMware ESX server ■ Unixサーバコンピュータ ■ Solaris Zone Server ■ コンピュータサーバ ■ ラップトップ ■ メインフレーム ■ ATMスイッチ ■ ファイアウォール ■ ルータ ■ スイッチ ■ ネットワークプリンタ 	いいえ

IPドメイン名

Asset ManagerからHP Universal CMDBにIPデータを複製するとき、IP CIタイプの**ip:ip_domain**属性の値に**DefaultDomain**が入力されます。

別の値を使用する場合、<HP Universal CMDBインストールフォルダ>\j2f\fcmdb\CodeBase\AMDBAdapter\META-INF\fixed_values.txtファイルの以下の行のいずれかを変更します。

- | |
|--|
| entity[ip] attribute[ip_domain] value[DefaultDomain] |
|--|
- | |
|--|
| entity[ip] attribute[ip_domain] value[\${DefaultDomain}] |
|--|

サポートされるTQL

サポートされるTQLを調べるには、HP Universal CMDB内の定義を表示します。

- 1 HP Universal CMDBを起動します

- 2 **[Modeling (モデリング) / Query Manager (クエリマネージャ)]** メニューオプションを選択します。
- 3 **[Integration (統合) / SM Query (SMクエリ)]** を選択します
- 4 このフォルダ内でサポートされるTQLを以下に挙げます。
 - hostData
 - hostRelationsData
 - networkData1
 - networkData2
 - networkRelationsData
 - printerData
- 5 **[Integration (統合) / SM Sync (SM同期)]** を選択します
- 6 このフォルダ内でサポートされるTQLを以下に挙げます。
 - hostExtendedData
 - networkComponentExtendedData1
 - networkComponentExtendedData2
 - printerExtendedData

HP Universal CMDB -> Asset Manager

概要

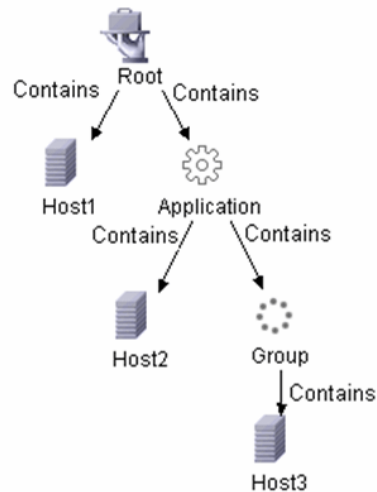
▶ 概要 [献 39]

HP Universal CMDBはビジネスサービスの信頼できるソースです
(Asset ManagerはビジネスサービスがリンクされるホストCIの信頼できるソースです)。

デフォルトで、統合の範囲では2つのCIタイプが考慮されます。

- CIタイプ = ビジネスサービス
- CIタイプ = アプリケーション (アプリケーションもCIタイプ = ビジネスサービスに付随します)

ビジネスサービスは、以下の図に適合する場合に複製されます。



HP Universal CMDBビジネスサービスは、以下のホストのビジネスサービス資産+クライアント-リソース関係としてAsset Managerで複製されます。

- ビジネスサービスにリンクされたすべてのホスト
- アプリケーションにリンクされたすべてのホスト
- グループに添付されたすべてのホスト。ただし、このグループはさらにアプリケーションに添付されているとします（すべてのホスト。ただし、Asset Managerに既に存在する場合）。

アプリケーションがグループを構成するコンピュータにリンクされているものの、グループにリンクされていません。

これらの関係すべてで、**amClientResource:CRType**フィールドは '<AMビジネスサービスの名前>'内で使用に設定されます。

 **注意:**

Asset Managerに存在しないCIは作成されません。ビジネスサービス資産および既存CIとの関係のみが作成されます。

複製が成功するには、ビジネスサービスの構造が提供されたビジネスサービスTQL内の必要な構造に適合し、BusinessServices.xmlに反映されている必要があります。この設定は、HP ConnectItシナリオにより考慮される設定です。これはカスタマイズ可能ですが、変更にはHP ConnectItシナリオを修正する必要があります。

照合更新キー

CIタイプ = ビジネスサービスの場合

Asset Managerのキー	Asset Managerキーで検索するHP Universal CMDB値
amAsset:AssetTag	Business Service:data_name

警告:

HP Universal CMDBキーは固有ではありません。このため、値が固有であることを確認する必要があります。

CIタイプ = アプリケーションの場合

Asset Managerのキー	Asset Managerキーで検索するHP Universal CMDB値
amAsset:AssetTag	Application:data_name

警告:

HP Universal CMDBキーは固有ではありません。このため、値が固有であることを確認する必要があります。

ビジネスサービス-ホスト関係

Asset Managerのキー	Asset Managerキーで検索するHP Universal CMDB値
amAsset:AssetTag	host:host_systemassettag

警告:

host:host_systemassettagは、HP Universal CMDBで固有キーではありません。

しかし、値は固有である必要があります。

HP Universal CMDBでCIを手動で作成しない場合、この状況に当てはまるはずですが。CIはAsset Managerから移行され、Asset ManagerからHP Universal CMDBへの照合更新キーとして使用される、固有の**amAsset:AssetTag**を使用するためです。

結果とその条件

- HP Universal CMDBでルートビジネスサービスからホストのリンクを解除しても、Asset Managerでホストは解除されません。
- HP Universal CMDBでビジネスサービスを削除しても、Asset Managerでビジネスサービスは削除されません。

HP Service Manager <-> Asset Manager

概要

- ▶ 概要 [献 42]

HP Service ManagerにCIが存在しない場合の結果

HP Service ManagerにCIが存在しないのにPPT/CIリンクが存在する場合、HP Connect-ItによってAsset Manager出力イベントが作成されます。

HP Connect-Itは、シナリオ再実行時に常に出カイベントの試行と処理を行います。

Asset Managerデータベースオプションによって、出力イベントは自動的に期限切れとなります。

- 1 Asset Manager Windowsクライアントを起動し、データベースに接続します。
- 2 [管理/データベースオプション] メニューを使用します。
- 3 [イベント管理/出カイベントの有効時間(時間)] オプションを設定します。

amsm-ppt.scnの照合更新キー

会社

HP Service Managerのキー	HP Service Managerキーで検索するAsset Manager値
company:customer.id	amCompany:Code

amCompany:Qualif1 = Parent companyであるAsset Manager会社のみが複製されます。

英語以外の言語では、<HP Connect-Itインストールフォルダ>\config\ac\strings\qualif.strファイルをカスタマイズする必要があります。こ

のファイルで変更する文字列のIDは**AMQUALIF_PARENT**です。**Parent company**を、お使いの言語の正しい文字列に置き換えます。

Asset Manager **amCompany:Code**フィールドが入力されている必要があります。

ベンダ

HP Service Managerのキー	HP Service Managerキーで検索する Asset Manager値
vendor:vendor	amCompany:Name
AND vendor:location	amCompany:MainSite:Barcode

場所

HP Service Managerのキー	HP Service Managerキーで検索する Asset Manager値
location:location	amLocation:BarCode

Asset Manager **amLocation.BarCode**フィールドが入力されている必要があります。

部署

HP Service Managerのキー

dept:company + dept:dept

HP Service Managerキーで検索する Asset Manager値

amEmplDept.Location.Company.Code

照合更新では、以下のルールが使用されます。

```
RetVal = RemoveSlashAtExtremity([FullNam  
e])
```

```
If [Location.Company.Code] <> "" Then  
RetVal = [Location.Company.Code] & "/" _  
& RetVal  
End If
```

例：

Asset Managerに以下の4つの部署が存在する
とします。

- 部署 **NameA**

FullName = /NameA/

- 部署 **NameB** (**NameA**配下)

FullName = /NameA/NameB/

- 部署 **NameC** (**NameB**配下)

FullName = /NameA/NameB/NameC/

- 部署 **NameD** (**NameC**配下)

FullName =
/NameA/NameB/NameC/NameD/

NameDは、**amCompany:Code =**
COMPANY_CODE SMで会社にリンクさ
れている場所にリンクされています。

NameDのキーは

COMPANY_CODE/NameA/NameB/NameC/NameD
です。

NameCのキーは**NameA/NameB/NameC**で
す。

amEmplDept.bDepartment = 1であるAsset Manager部署のみが複製されま
す。

連絡先

HP Service Managerのキー	HP Service Managerキーで検索する Asset Manager値
contacts:contact.name	amEmplDept:Name, Name:FirstName (amEmplDept:BarCode)

重要項目:

amEmplDept:Nameは50文字まで、**Name:FirstName**は30文字まで、**amEmplDept.BarCode**は255文字まで入力できます。

しかし、**contacts.contact.name**は140文字のみ格納できます。

amEmplDept.BarCodeフィールドが55文字を超過しない場合、照合更新キーは正しく機能するはずですが。

モデル

HP Service Managerのキー	HP Service Managerキーで検索する Asset Manager値
model:part.no	amModels:BarCode

注意:

Asset Manager **amModels.BarCode**フィールドが入力されている必要があります。

在庫倉庫

HP Service Managerのキー	HP Service Managerキーで検索する Asset Manager値
stockroom:stockroom	amStock:Name

amsm-ci-ppt-link.scnの照合更新キー

デバイスCIとPPTオブジェクト間のリンク

HP Service Managerのキー	HP Service Managerキーで検索する Asset Manager値
device:logical.name	amComputer:AssetTag

HP Service Managerのキー	HP Service Managerキーで検索するAsset Manager値
<p>デバイスは以下のオブジェクトにリンクされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 連絡先 ■ モデル ■ ベンダ ■ 場所 ■ 部署 	<p>PPTの転送に使用されるのと同じキーが使用されます。上の表を参照してください。</p>

Asset Manager **amComputer:AssetTag** フィールドが入力されている必要があります。

smam-ppt.scnの照合更新キー

smam-ppt.scnシナリオは**SACMIntegration** Webサービスを使用します。

場所と会社と国へのリンク

Asset Managerのキー	Asset Managerキーで検索するHP Service Manager値
amLocation:BarCode	location:location
amCompany:Code	location:company
amLocation:Country:Name	location:country

amCompany:Code = location:country について国が見つからない場合、場所は**amCompany:Code = Unknown country**である場所にリンクされます。

Asset Manager **amCompany:Code** フィールドが入力されている必要があります。

Asset Manager **amCountry:Name** フィールドに、固有の値が入力されている必要があります。

smam-ppt.scnは、catmod.mptファイル内の**ScCountryToAc** マップテーブルを使用して、HP Service Managerの国をAsset Managerの国にマップします。

会社

Asset Managerのキー	Asset Managerキーで検索するHP Service Manager値
amCompany:Code	company:CompanyCode
amCompany:MainSite:Name	company:CompanyCode

Asset Managerのキー	Asset Managerキーで検索するHP Service Manager値
amCompany:Sites:Name	company:CompanyCode

Asset Manager **company:CompanyCode**フィールドに、固有の値が入力されている必要があります。

Asset Manager **amCompany:Code**フィールドが入力されている必要があります。

Asset Manager部署として複製されるHP Service Manager会社

Asset Managerのキー	Asset Managerキーで検索するHP Service Manager値
amEmplDept:BarCode	company:CompanyCode
amEmplDept:Location:FullName	company:CompanyCode

HP Service Manager **company:CompanyCode**フィールドに、固有の値が入力されている必要があります。

amEmplDept:bDepartmentは1に設定されます。

部署

Asset Managerのキー	Asset Managerキーで検索するHP Service Manager値
amEmplDept:FullName	dept:dept.structure

amEmplDept:bDepartmentは1に設定されます。

関数は**dept:dept.structure**を**amEmplDept:FullName**に変換します。

連絡先

Asset Managerのキー	Asset Managerキーで検索するHP Service Manager値
amEmplDept:BarCode	contacts:contactname
amEmplDept:Location:BarCode	contacts:location
amEmplDept:Parent:FullName	contacts:dept

HP Service Manager **contacts:locationcode**フィールドに、固有の値が入力されている必要があります。

オペレータ

Asset Managerのキー	Asset Managerキーで検索するHP Service Manager値
amEmplDept:BarCode	operator:name
amEmplDept:WorkUnit:Description	operator:name
amEmplDept:WorkUnit:Model:Name	シナリオは、従業員を amModel:Name = Hourly rate であるモデルにリンクします。

オペレータは、連絡先テーブルの拡張部分です。
連絡先がインポートされた後、オペレータがインポートされ、**amEmplDept:WorkUnit**に入力されます。

Asset Managerで、**amModel:Name = Hourly rate**のモデルが作成されます。
このモデルは、**amNature:Code = TCO_WORK_UNIT**である（既存であるはずの）属性にリンクされ、**amModel:Name = Work unit**である（存在しない場合には作成される）親モデルにもリンクされます。

親モデルは、同様の属性にもリンクされる必要があります。

これは、手動で作成するか、ファイナンス - 専門分野データ(TCO-予算-経費付替え)のインポートを通じて取得できます。

ベンダ

Asset Managerのキー	Asset Managerキーで検索するHP Service Manager値
amCompany:Name	vendor:vendor
amCompany:MainSite:FullName	vendor:vendor.id + vendor:vendor.location
amCompany:MainSite:Country:Name	vendor:country
amCompany:Contact:FirstName + amCompany:Contact:Name	<ul style="list-style-type: none">■ vendor:contract.person■ vendor:order.person■ vendor:sales.mgr■ vendor:service

vendor:contract.person、**vendor:order.person**、**vendor:sales.mgr**、および**vendor:service**が<姓>、<名>のフォーマットを使用していることを確認してください。

これは、Asset Managerで**amCompany:Contact:FirstName**と**mCompany:Contact:Name**に分割されます。

HP Service Manager **vendor:vendor**フィールドに、固有の値が入力されている必要があります。異なる場所にある2つの異なるHP Service Managerベンダ

が、HP Service Managerで**vendor:vendor**フィールドで同じ値を持つ場合、最初のベンダのみがAsset Managerにインポートされます。

HP Service Manager **vendor:vendor.location + vendor:vendor.id**フィールドに、固有の値が入力されている必要があります。異なる場所にリンクされているにもかかわらず（住所が異なる）、2つのHP Service Managerベンダが**vendor:vendor.location**フィールドと**vendor:vendor.id**フィールドで同じ値を持つ場合、2つのベンダは同じ場所（Asset Managerに先にインポートされた場所）にリンクされます。

Asset Manager **amCountry:Name**フィールドに、固有の値が入力されている必要があります。

HP Connect-Itシナリオは、catmod.mptファイルにある**ScCountryToAc**マップテーブルを使用して、**amCountry:Name**をマップします。

Asset Managerで会社として複製されるHP Service Managerベンダサイト

Asset Managerのキー	Asset Managerキーで検索するHP Service Manager値
amLocation:FullName	vendor:vendor.id + vendor:location を使用して完全名が作成されます
amLocation:Company:Name	vendor:vendor

HP Service Manager **vendor:vendor.id + vendor:location**フィールドに、固有の値が入力されている必要があります。異なる場所にリンクされているにもかかわらず（住所が異なる）、2つのHP Service Managerベンダが**vendor:vendor.id + vendor:location**フィールドで同じ値を持つ場合、Asset Managerでの2つのベンダの場所は単一の場所（Asset Managerに先にインポートされた場所）になります。

ベンダ作成時（▶ [ベンダ \[献 70\]](#)）：異なる場所にある2つの異なるHP Service Managerベンダが、HP Service Managerで**vendor:vendor**フィールドで同じ値を持つ場合、最初のベンダのみがAsset Managerにインポートされます。このため、このマッピングによって作成される場所が会社にリンクされると、間違っただ会社に関連付けられることがあります。

在庫

Asset Managerのキー	Asset Managerキーで検索するHP Service Manager値
amStocks:Name	stockRoom:stockroom
amStock:Supervisor:BarCode	stockRoom:manager

Asset Managerのキー	Asset Managerキーで検索するHP Service Manager値
amStock:DelivLocation:Field1	location:location

モデル

Asset Managerのキー	Asset Managerキーで検索するHP Service Manager値
amModel:BarCode	model:part.no
amModel:Brand:Name + amModel:Brand:Company:Name	model:manufacturer
amModel:Nature:Code	model:Category
amModel:Parent:BarCode	model:Category
amModel:Photo	<pre> if [RetrieveSACMMModelResponse.model.instance.attachments.attachment(0).name] = "" then RetVal = [RetrieveSACMMModelResponse.model.instance.Model] + "_" + [RetrieveSACMMModelResponse.model.instance.PartNumber] else RetVal = "SM_" & [RetrieveSACMMModelResponse.model.instance.attachments.attachment(0).name] end if </pre>

<HP Connect-Itインストールフォルダ

>\scenario\ac\ac52\sacm\mpt\catmod.mptにある**ScToAcNature** マップテーブルを使用して、**amModel:Nature:Code**がマップされます。

ScToAcNature マップテーブルにリストされている属性は、Asset Managerデータベースに存在する必要があります。

HP Service Managerで**model:Model**、**model:PartNumber**、**model:Category**のいずれかに入力されていない場合、Asset Managerでモデルは作成されません。

smam-wo.scnの照合更新キー

このシナリオは、HP Service ManagerからAsset Managerに、予定外の変更とタスクの詳細を作業指示として伝搬します。

CIとPPTデータ間の関連リンクは、別のHP Connect-ItシナリオによってAsset ManagerからHP Service Managerに伝搬します。

変更->作業指示

Asset Managerのキー	Asset Managerキーで検索するHP Service Manager値
amWorkOrder:WoNo	cm3r:header.number

タスク->作業指示

Asset Managerのキー	Asset Managerキーで検索するHP Service Manager値
amWorkOrder:WoNo	cm3t:header.number

対応するCIについて

Asset Managerのキー	Asset Managerキーで検索するHP Service Manager値
amComputer:AssetTag	device:logical.name

HP Service Manager -> HP Universal CMDB

このセクションでは、HP Service ManagerがCIに関する実際のステータス情報を取得する方法について説明します。

標準のHP Service Manager機能で、CIの実際のステータスが表示されます。

実際のステータスは、CIの現実的な属性を反映します。ほとんどの場合、これらの属性は、Asset Managerに複製され、さらにHP Universal CMDBに複製/フェデレーションされるHP Discovery and Dependency Mapping Inventory棚卸データを通じて取得されます。

実際のステータスデータを取得するのに、HP Service ManagerはHP Universal CMDB Webサービスをコールします。このWebサービスはTQLをコールします。TQLは、フェデレーションと複製を通じてAsset Managerデータを取得します。

4 用語集

実際のステータス

CI（構成アイテム）の実際のステータスとは、その実際の構成であり、インストールされたソフトウェア、IPアドレスおよびファイルシステムなどの属性を含みます。これは、管理ステータスとは異なる場合があります。

フェデレーション

データフェデレーションは、データを移動せず、データの冗長性を生み出すことなく、複数のヘテロジニアスなソースからのデータを効率的に結合することを目的としています。データフェデレーションパターンは、実際のデータが複数の分散されたソースに格納されている、統合されたおよび透過的な（仮想）ビューに対するデータ操作をサポートします。ソースデータはソースシステムの制御下に留まりながら、フェデレーションアクセスの要求に応じて引き出されます。

HP Universal CMDBフェデレーションを使用することで、HP Service Managerなどのその他のHP SoftwareソリューションでAsset Managerデータを表示して活用できます。

データフェデレーションの代替戦略は、データ複製です。

▶ 複製 [献 76]

管理ステータス

CI（構成アイテム）の管理ステータスとは、公式に管理された構成のことです。これは、実際のステータスとは異なる場合があります。

PPT

人員、場所、および物に関連するデータ。これは、HP Connect-Itを使用することで、HP Service ManagerとAsset Managerとの間で同期されます。

同期されるPPTを以下に挙げます。

- 会社
- ベンダ
- 場所
- 部署
- 連絡先
- モデル
- 在庫倉庫

複製

データ複製は、ホストデータベースから別のホストデータベースにデータをコピーするストレージ戦略です。1つのデータベースがデータのマスターコピーを維持し、追加データベースがそのデータのスレーブコピーを維持します。

例えば、HP Connect-Itを使用することで、HP Discovery and Dependency Mapping InventoryデータはAsset Managerに複製されます。

データ複製の代替戦略は、データフェデレーションです。

▶ フェデレーション [献 75]

SACM

サービス資産および構成管理はITILプロセスです。

SACMの目的は、ITサービスを提供するのに必要となる構成アイテムに関する（それらの関係を含む）情報を維持することにあります。

TQL (Topology Query Language)

SACM統合は、Topology Query Language (TQL) クエリのコレクションを使用して、Asset ManagerからHP Universal CMDBへ、およびHP Universal CMDBからHP Service ManagerへとCI属性情報を収集します。

UNSPSC

国連標準製品およびサービスコード (United Nations Standard Products and Services Code)。UNSPSCは、製品とサービスの効率的で正確な分類のための、オープンでグローバルな多部門標準を提供します。

索引

- インストール
 - コンポーネント, 15
 - オンラインヘルプ, 8
 - コネクタ
 - HP Service Manager Webサービス, 42
 - 設定, 46
 - シナリオ
 - インストール, 18
 - スケジュール, 46, 41, 22
 - 出力イベント, 64
 - データストア, 30
 - データマッピング, 47
 - ドキュメント, 8
 - ビジネスサービス
 - HP Universal CMDBからAsset Managerへの転送, 39
 - 照合更新キー, 61
 - 属性とモデル, 39
 - ビュー
 - 作成, 23
 - ファイナンス - 専門分野データ (TCO-予算-経費付替え), 44
 - マッピングファイル, 35
 - 互換性
 - サポートされる製品バージョン, 15
 - 構成アイテム
 - フェデレーション対複製, 53
 - 作業指示
 - 照合更新キー, 72
 - 実際のステータス, 37
 - 属性のカスタマイズ, 38
 - 照合更新キー
 - 概要, 47
 - 専門分野データ, 44, 20
 - 配布パッケージ, 16
 - 必要条件, 16
 - 複製ジョブ
 - 作成, 32
- A**
- Asset Manager
 - Service Managerとの統合, 42
 - UCMDBとの統合, 39
 - Asset Managerアダプタ
 - データストアの作成, 30
 - 作成, 29
 - Asset Managerデータストア
 - 作成, 30

C

- CI
 - 実際のステータス, 37
- CIタイプ
 - 同期, 54
- CIタイプの同期, 54

D

- DDMi
 - Asset Managerとの統合, 19
- dtSACMCreateフィールド
 - amPortfolioへの追加, 25

H

- HP Connect-It
 - シナリオのインストール, 18
- HP Discovery and Dependency Mapping Inventory, 19
- HP Service Manager
 - 統合, 42

I

- IPドメイン, 60
- ITIL
 - コンプライアンス, 10

S

- Service Manager
 - Asset Managerとの統合, 42
 - UCMDBとの統合, 34
- SQLビュー
 - 作成, 23

U

- UCMDB
 - Asset Managerとの統合, 39
 - Asset Managerとの統合, 23
 - Service Managerとの統合, 34
- UNSPSC, 20

W

- Webサービス
 - SACMIntegration, 43

Z

- zipファイル, 16